

令和 7 年 度
事 業 報 告 書

学 校 法 人 平 成 医 療 学 園

目 次

I.	法人の概要	1
1.	名称・所在地	1
2.	建学の理念	1
3.	沿革	1
4.	設置する学校	2
5.	学生数	4
	(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率	4
	(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率	6
	(3) 収容定員充足率の推移	9
	(4) 専任教員1人当たりの学生数	12
6.	理事・監事・評議員・会計監査人・理事選任機関	14
7.	組織	16
8.	教職員数	17
	(1) 教職員数	17
	(2) 年齢別専任教員数	17
	(3) 職階別専任教員数	21
	(4) 専任教員・非常勤教員比率	23
II.	事業の概要	27
1.	基本的な方針	27
2.	事業の実施状況	27
	(1) 宝塚医療大学	27
	(2) 平成医療学園専門学校	36
	(3) 横浜医療専門学校	40
	(4) なにわ歯科衛生専門学校	43
	(5) 名古屋平成看護医療専門学校	45
	(6) 日本総合医療専門学校	49
	(7) 福島医療専門学校	50
	(8) 法人本部	55
3.	理事会・評議員会の開催状況	57
4.	学位又は称号	62
	(1) 取得可能な学位又は称号	62
	(2) 学位授与数及び授与率	63
5.	学生生徒等納付金	64
6.	卒業及び就職等の状況	69
	(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等	69
	(2) 主な就職先	71
7.	国家試験の受験状況	72
8.	退学者数・除籍者数・留年者数・中退率	74
	(1) 退学者数	74
	(2) 除籍者数	74
	(3) 留年者数	74
	(4) 中退率	75
9.	社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数	75
	(1) 社会人学生数	75
	(2) 留学生数	76
	(3) 海外派遣学生数	76
III.	財務の概要	77
1.	決算の概要	77
2.	その他	82

3.	経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	83
IV.	学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要	84
	(1) 関係する決議の概要	84
	(2) 体制整備及び運用状況の概要	84

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人平成医療学園
理 事 長 名	岸野 雅方
所 在 地	〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17
電 話 番 号	06-6375-7773
認 可 年 月 日	平成13年 3月 30日 大阪府知事認可 (準学校法人) 平成22年 10月 29日 文部科学大臣認可 (学校法人)

2 建学の理念

学校法人平成医療学園は、平成12年4月に「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マツサージ指圧の施術を行っている治療家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念に基づき、厚生省（現：厚生労働省）から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設したことに始まります。

本学園は、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」を目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。

3 沿革

2000(平成12)年 4月	厚生大臣から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設
2001(平成13)年 4月	大阪府知事から準学校法人の認可を受け、併せて、「平成柔道整復専門学院」を「平成医療学園専門学校」に名称変更
2002(平成14)年 4月	「平成医療学園専門学校」に鍼灸師科を設置
2003(平成15)年 4月	「平成スポーツトレーナー専門学校」開設
2005(平成17)年 4月	「横浜医療専門学院」開設
2006(平成18)年 4月	「平成医療学園専門学校」に東洋療法教員養成学科を開設
2007(平成19)年 4月	「横浜医療専門学院」を「横浜医療専門学校」に名称変更
2009(平成21)年 4月	「大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校」を学校法人大阪産業大学から経営移管、校名を「なにわ歯科衛生専門学校」に名称変更
2010(平成22)年 3月	「平成スポーツトレーナー専門学校」廃校
2010(平成22)年 10月	文部科学大臣から「宝塚医療大学」設置認可
2011(平成23)年 4月	「宝塚医療大学」開学
2014(平成26)年 4月	「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2017(平成29)年 10月	教育研究事業に付随する事業として「宝塚医療大学附属介護ステーション」開設
2019(平成31)年 4月	「宝塚医療大学」に留学生別科を開設

	「トライデントスポーツ医療看護専門学校」を学校法人河合塾学園から経営移管、校名を「名古屋平成看護医療専門学校」に名称変更 「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程応用日本語学科を開設 「横浜医療専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2020(令和2)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部及び介護福祉別科を開設 「日本総合医療専門学校」を学校法人日本医科学総合学院との合併により開設
2021(令和3)年 3月	「和歌山看護専門学校」を公益社団法人和歌山県病院協会から経営移管
2022(令和4)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部看護学科及び社会福祉士養成課程（通信制）を開設
2023(令和5)年 4月	「宝塚医療大学」に保健医療学部口腔保健学科を開設 「日本総合医療専門学校」に鍼灸学科を開設 「福島医療専門学校」を学校法人福寿会との合併により開設
2024(令和6)年 3月	「和歌山看護専門学校」廃校
2024(令和6)年 4月	「宝塚医療大学」に観光学部観光学科を開設

4 設置する学校

(令和8年5月1日現在)

学校名	学長・学校長名	所在地・電話番号	認可または届出年月日
宝塚医療大学 保健医療学部 理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科	岸野 雅方	〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷 緑ガ丘1 TEL：072-736-8600 〒531-0071 大阪市北区中津6丁目9-38 TEL：06-6451-8020	平成22年10月29日 令和4年10月31日
和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科 看護学科		〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島2252 TEL：073-494-5000 〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄1107-26 TEL：073-456-5780	令和元年8月27日 令和3年10月22日
観光学部 観光学科		〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里619-1 TEL:0980-74-4040 〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町6-6-3 TEL:06-6420-4477	令和5年10月26日
留学生別科 (東京キャンパス)		〒116-0002 東京都荒川区荒川1-41-11 TEL：03-6458-3394	平成30年12月26日

(大阪難波キャンパス)		〒556-0016 大阪府大阪市浪速区元町二丁目6番21号 TEL : 06-6641-6500	
介護福祉別科 社会福祉士養成課程（通信制） （大阪豊崎キャンパス）		〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17 TEL : 06-6374-6300	令和2年3月31日 令和4年3月10日
平成医療学園専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 東洋療法教員養成学科 文化・教養専門課程 日本語学科 応用日本語学科	竹本 晋史	〒531-0071 大阪府大阪市北区 中津6-10-15 TEL : 06-6454-1500	平成13年3月30日
横浜医療専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 文化・教養専門課程 日本語学科	吉田 洪先	〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区 金港町9-12 TEL : 045-440-1750	平成18年10月20日
なにわ歯科衛生専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	古郷 幹彦	〒530-0011 大阪府大阪市北区 大深町2-179 TEL : 06-6375-1400	平成20年12月2日
名古屋平成看護医療専門学校 医療専門課程 看護学科 理学療法学科 柔道整復学科 はり・きゅう学科 文化・教養専門課程 アスレティックトレーナー学科	高木 保子	〒464-0850 愛知県名古屋市千種区 今池1-5-31 TEL : 052-735-1608	平成31年3月4日
日本総合医療専門学校 医療専門課程 柔道整復学科 鍼灸学科	齋藤 貴司	〒116-0002 東京都荒川区荒川1-41-10 TEL : 03-5850-3500	令和2年1月16日
福島医療専門学校 医療専門課程 柔整科 鍼灸科 歯科衛生士科 文化・教養専門課程 日本語学科	飯島 正治	〒963-8026 福島県郡山市並木 3-2-23 TEL : 024-933-0808	令和5年1月20日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
理学療法学科	70	48	68.6%
柔道整復学科	60	27	45.0%
鍼灸学科	30	22	73.3%
口腔保健学科	30	18	60.0%
保健医療学部 小計	190	115	60.5%
リハビリテーション学科	100	46	46.0%
看護学科	50	46	92.0%
和歌山保健医療学部 小計	150	92	61.3%
観光学科	100	53	53.0%
観光学部 小計	100	53	53.0%
合 計	440	260	59.1%

別科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
留学生別科（東京キャンパス）	1,600※	871	—
留学生別科（大阪難波キャンパス）	700※	206	—
介護福祉別科	60	58	96.7%
合 計	2,360	1,135	—

(注1) 留学生別科は、収容定員で記載。

(注2) 留学生別科入学者数は、令和7年10月入学者も含む。

社会福祉士養成課程（通信制）	入学定員	入学者数	入学定員充足率
一般養成課程（1年9か月）	140	15	10.7%
合 計	140	15	10.7%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間	60	31	51.6%
鍼灸師科 昼間	57	32	56.1%
東洋療法教員養成学科	10	2	20.0%
医療専門課程 小計	127	65	51.1%
日本語学科 日本語1年コース	20	1	5.0%

日本語学科 医療福祉系1年コース	20	1	5.0%
日本語学科 進学1.5年コース	60	67	111.6%
日本語学科 進学2年コース	60	86	143.3%
応用日本語学科 1年コース	40	35	87.5%
応用日本語学科 2年コース	20	20	100.0%
文化・教養専門課程 小計	220	210	95.5%
合 計	347	275	79.3%

(注) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和7年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
柔道整復師科 昼間	60	55	91.7%
柔道整復師科 夜間	30	6	20.0%
鍼灸師科 昼間	60	45	75.0%
鍼灸師科 夜間	30	16	53.3%
医療専門課程 小計	180	122	67.8%
日本語学科 進学1.5年コース	20	20	100.0%
日本語学科 進学2年コース	20	22	110.0%
文化・教養専門課程 小計	40	42	105.0%
合 計	220	164	74.5%

(注) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和7年10月入学者を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
歯科衛生士学科 昼間	72	79	109.7%
歯科衛生士学科 夜間	36	41	113.8%
合 計	108	120	111.1%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
看護学科	40	42	105.0%
理学療法学科	30	18	60.0%
柔道整復学科 昼間部	30	21	70.0%
はり・きゅう学科 昼間部	40	35	87.5%
医療専門課程 小計	140	116	82.9%
アスレティックトレーナー学科	25	21	84.0%
文化・教養専門課程 小計	25	21	84.0%

合 計	165	137	83.0%
-----	-----	-----	-------

(注1) 令和8年4月からアスレティックトレーナー学科は3年制に変更。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
柔道整復学科	30	26	86.7%
鍼灸学科	30	11	36.7%
合 計	60	37	61.7%

◆ 福島医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
柔整科 1部	60	41	68.3%
鍼灸科 1部	30	21	70.0%
歯科衛生士科 1部	40	38	95.0%
歯科衛生士科 2部	40	12	30.0%
医療専門課程 小計	170	112	65.9%
日本語学科 進学1.5年コース	67	34	—
日本語学科 進学2年コース		58	—
文化・教養専門課程 小計	67	92	137.3%
合 計	237	204	86.1%

(注1) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和7年10月入学者を記載。

(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
理学療法学科	280	191	68.2%
柔道整復学科	240	171	71.3%
鍼灸学科	120	91	75.8%
口腔保健学科	188	49	26.1%
保健医療学部 小計	828	502	60.6%
リハビリテーション学科	400	226	56.5%
看護学科	200	178	89.0%
和歌山保健医療学部 小計	600	404	67.3%
観光学科	300	169	56.3%
観光学部 小計	300	169	56.3%
合 計	1,728	1,075	62.2%

(注1) 令和5年度に、保健医療学部口腔保健学科を開設。

(注2) 令和6年度に、観光学部観光学科を開設。

(注3) 令和7年度に、保健医療学部口腔保健学科の入学定員を64名から30名に変更。

別科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
留学生別科（東京キャンパス）	1,600	890	55.6%
留学生別科（大阪難波キャンパス）	700	544	77.7%
介護福祉別科	120	117	97.5%
合 計	2,420	1,551	64.1%

社会福祉士養成課程（通信制）	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
一般養成課程（1年9か月）	280	45	16.1%
合 計	280	45	16.1%

◆ 平成医療学園専門学校

（令和8年5月1日現在、単位：名）

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	180	101	56.1%
鍼灸師科 昼間	171	94	55.0%
東洋療法教員養成学科	20	9	45.0%
医療専門課程 小計	371	204	55.0%
日本語学科 日本語1年コース	20	1	5.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	1	5.0%
日本語学科 進学1.5年コース	60	67	111.7%
日本語学科 進学2年コース	120	154	128.3%
応用日本語学科 1年コース	40	35	87.5%
応用日本語学科 2年コース	40	38	95.0%
文化・教養専門課程 小計	300	296	98.7%
合 計	671	500	74.5%

(注1) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和7年10月入学者を記載。令和7年10月入学者数に対する収容定員を記載。

◆ 横浜医療専門学校

（令和8年5月1日現在、単位：名）

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復師科 昼間	180	142	78.9%
柔道整復師科 夜間	90	21	23.3%
鍼灸師科 昼間	180	121	67.2%
鍼灸師科 夜間	90	55	61.1%
医療専門課程 小計	540	339	62.8%
日本語学科 進学1.5年コース	20	20	100.0%

日本語学科 進学2年コース	40	39	97.5%
文化・教養専門課程 小計	60	59	98.3%
合 計	600	398	66.3%

(注1) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和7年10月入学者を記載。令和7年10月入学人数に対する収容定員を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
歯科衛生士学科 昼間	216	212	98.1%
歯科衛生士学科 夜間	108	117	108.3%
合 計	324	329	101.5%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
看護学科	120	109	90.8%
理学療法学科	120	86	71.7%
柔道整復学科 昼間	90	60	66.7%
はり・きゅう学科 昼間	120	108	90.0%
医療専門課程 小計	450	363	80.7%
アスレティックトレーナー学科	50	35	70.0%
文化・教養専門課程 小計	50	35	70.0%
合 計	500	398	79.6%

(注1) 令和8年4月からアスレティックトレーナー学科は3年制に変更。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔道整復学科	90	67	74.4%
鍼灸学科	90	34	37.8%
合 計	180	101	56.1%

◆ 福島医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員 充足率
柔整科 1部	180	143	79.4%
鍼灸科 1部	90	62	68.9%
歯科衛生士科 1部	120	100	83.3%
歯科衛生士科 2部	120	27	22.5%

医療専門課程 小計	510	332	65.1%
日本語学科 進学1.5年コース	22	34	154.5%
日本語学科 進学2年コース	90	83	92.2%
文化・教養専門課程 小計	112	117	104.5%
合 計	622	449	72.2%

(注1) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和7年10月入学者を記載。令和7年10月入学者数に対する収容定員を記載。

(3) 収容定員充足率の推移

◆ 宝塚医療大学

(各年度5月1日現在、単位：%)

学部	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
保健医療学部	95.9	86.6	73.4	66.4	60.6
和歌山保健医療学部	101.1	96.0	88.0	79.7	67.3
観光学部	—	—	6.0	34.5	56.3
全体（集計値）	97.8	90.5	74.3	67.4	62.2

※1 令和6年度に観光学部観光学科を開設。

別科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
留学生別科（大阪豊崎キャンパス）	67.0	99.0	—	—	—
留学生別科（東京キャンパス）	234.0	56.1	39.6	30.4	55.6
留学生別科（大阪難波キャンパス）	—	0.0	96.9	44.6	77.7
介護福祉別科	50.8	45.0	67.5	100.0	97.5
全体（集計値）	113.1	41.7	57.6	38.0	64.0

※1 令和5年度に留学生別科（大阪難波キャンパス）を開設。

※2 令和6年度から留学生別科（大阪豊崎キャンパス）を募集停止。

社会福祉士養成課程（通信制）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
短期養成課程（9か月）	1.7	8.3	15.0	8.3	—
一般養成課程（1年9か月）	5.0	19.6	23.9	20.0	16.1
全体（集計値）	4.0	17.6	22.4	17.9	16.1

※ 令和8年度に社会福祉士養成課程（通信制）短期養成課程（9か月）を募集停止。

◆ 平成医療学園専門学校

(各年度5月1日現在、単位：%)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	60.0	64.6	69.0	62.8	54.9
文化・教養専門課程	23.6	58.1	62.8	89.0	98.6
全体（集計値）	43.6	61.5	65.9	74.5	74.5

◆ 横浜医療専門学校

(各年度5月1日現在、単位：％)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	62.9	67.2	72.2	66.3	62.7
文化・教養専門課程	18.3	83.3	65.0	98.3	98.3
全体（集計値）	59.2	68.6	71.5	69.5	65.5

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(各年度5月1日現在、単位：％)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	105.6	108.3	103.1	102.4	101.5
全体（集計値）	105.6	108.3	103.1	102.4	101.5

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(各年度5月1日現在、単位：％)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	61.5	77.4	85.7	84.2	80.7
文化・教養専門課程	45.3	66.0	62.0	64.0	70.0
全体（集計値）	59.6	76.4	83.4	82.2	79.6

◆ 日本総合医療専門学校

(各年度5月1日現在、単位：％)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	56.7	57.2	58.3	58.9	56.1
全体（集計値）	56.7	57.2	58.3	58.9	56.1

※1 令和5年度から、鍼灸学科を開設。

◆ 福島医療専門学校

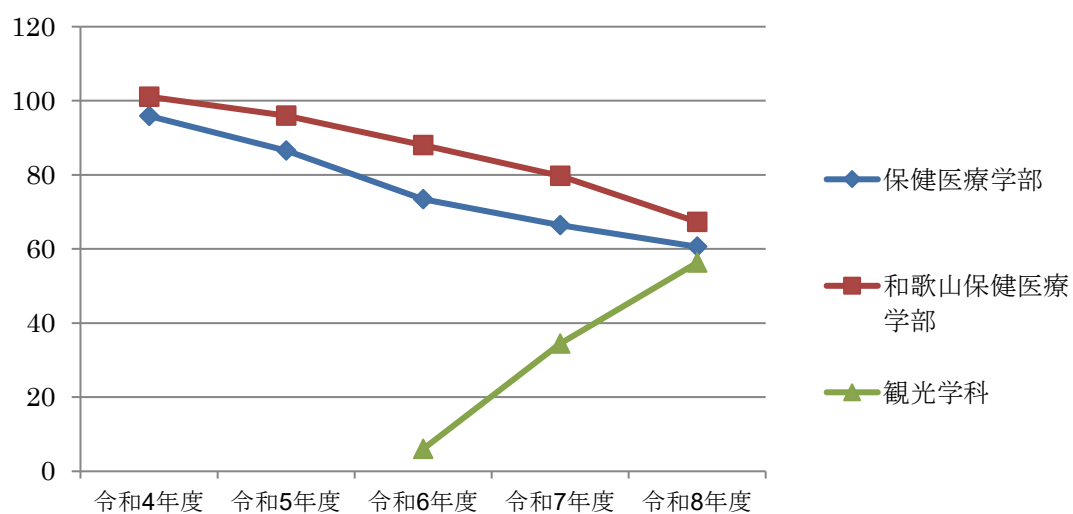
(各年度5月1日現在、単位：％)

学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療専門課程	84.5	76.7	73.3	67.3	65.1
文化・教養専門課程	86.7	70.0	93.3	70.0	86.7
全体（集計値）	84.7	75.7	76.3	67.7	69.6

※1 令和4年度は、旧福島医療専門学校の実績。

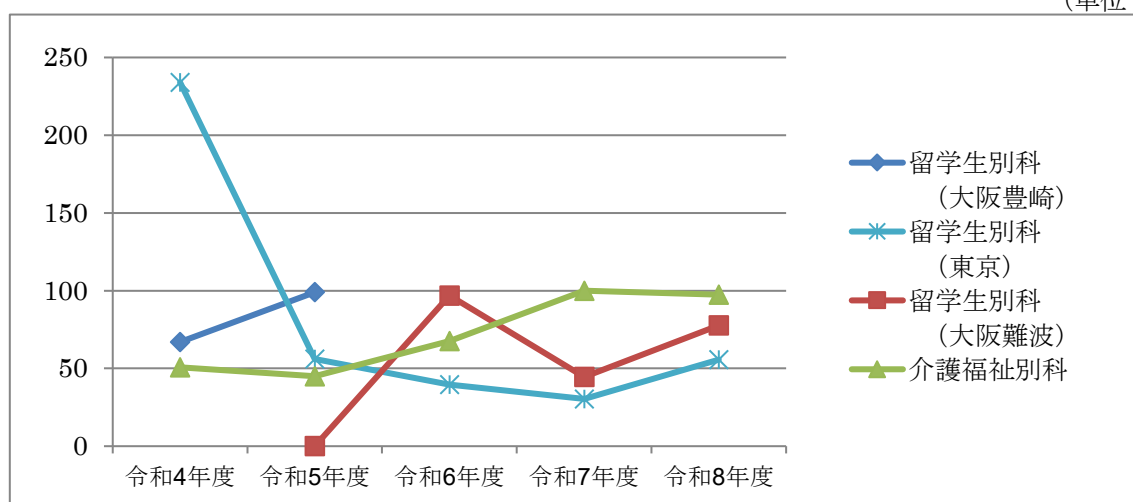
宝塚医療大学 収容定員充足率の推移

(単位：％)

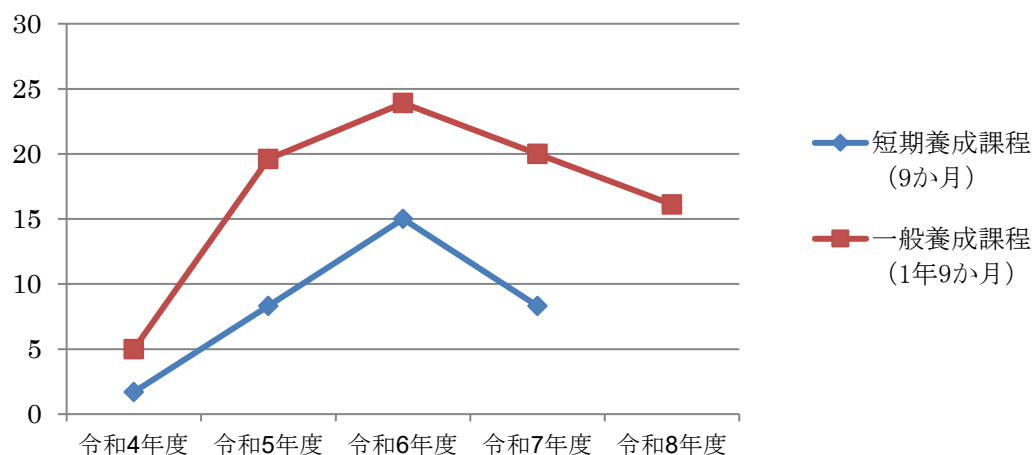


宝塚医療大学 別科 収容定員充足率の推移

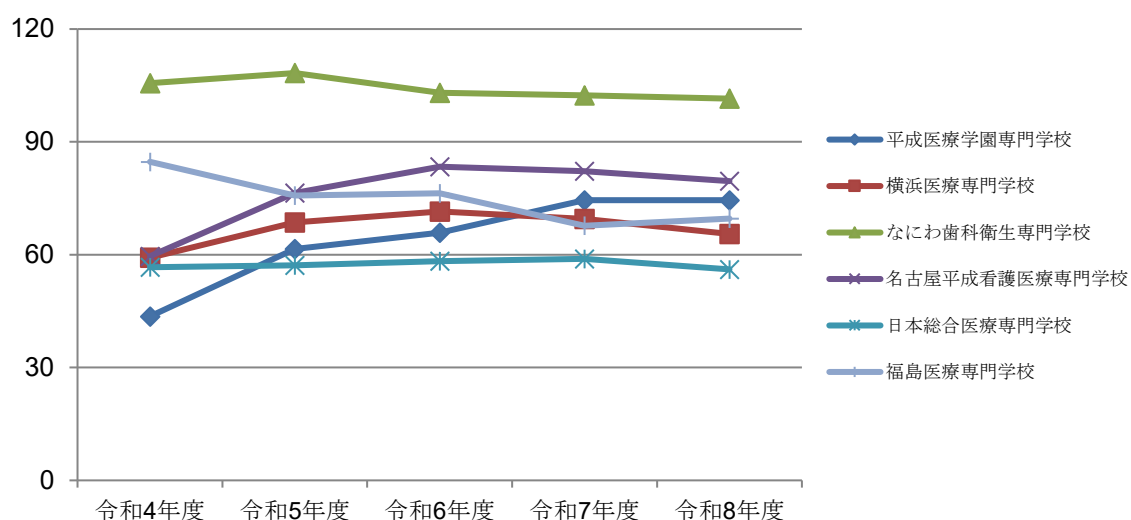
(単位：％)



宝塚医療大学 社会福祉士養成課程（通信制） 収容定員充足率の推移 (単位：%)



各専門学校 収容定員充足率の推移 (単位：%)



(4) 専任教員1人当たりの学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
理学療法学科	191	14	13.6
柔道整復学科	171	17	10.1
鍼灸学科	91	15	6.1
口腔保健学科	49	10	4.9
保健医療学部	502	56	9.0

リハビリテーション学科	226	25	9.0
看護学科	178	22	8.1
和歌山保健医療学部	404	47	8.6
観光学科	191	14	13.6
観光学部	191	14	13.6
合 計	1,097	117	9.4

(注1) 鍼灸学科専任教員には学長を含む。

(注2) 専任教員には助手を含む。

別科	学生数	専任教員数	専任教員1人 当たりの学生数
留学生別科（東京キャンパス）	890	20	44.5
留学生別科（大阪難波キャンパス）	544	11	49.5
介護福祉別科	117	4	29.3
合 計	1,551	35	44.3

社会福祉士養成課程（通信制）	学生数	専任教員数	専任教員1人 当たりの学生数
一般養成課程（1年9か月）	45	1	45
合 計	45	1	45

◆ 理事・監事（定数：理事 10 名以上 15 名以内、監事 2 名以上 4 名以内）

（令和8年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任 年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
理事長	2号	岸野 雅方	R7.6.19	常勤	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
代表業務 執行理事	2号	高木 保子	R7.6.19	常勤	名古屋平成看護医療専門学校校長
理事	1号	齋藤 貴司	R7.6.19	常勤	日本総合医療専門学校校長
		吉田 洪先	R7.6.19	常勤	横浜医療専門学校校長
	2号	浅谷 佐智子	R7.6.19	非常勤	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		内野 勝郎	R7.6.19	常勤	宝塚医療大学教員・副学長 宝塚医療大学附属統合医療臨床センター長
		小原 教孝	R7.6.19	常勤	宝塚医療大学教員・学長補佐
		木野 達司	R7.6.19	常勤	福島医療専門学校副校長
		榊 典夫	R7.6.19	非常勤	宝塚医療大学教員
		土江 直一	R7.6.19	非常勤	オリエントメディカルサービス株式会社 取締役
監事	—	吉田 明代	R7.6.19	常勤	職業訓練法人東京都調理職業訓練協会監事
	—	永井 隆世	R7.6.19	非常勤	社会福祉法人山の子会監事
	—	牧山 助友	R7.6.19	非常勤	学校法人河原学園 顧問

理事の選任（寄附行為第8条（抄））

第8条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人が設置する学校の学長又は校長のうちから評議員会において選任した者 2名
- (2) 前号に掲げるもののほか、評議員会において選任した者 8名以上13名以下

◆ 評議員（定数：11 名以上 16 名以内）

（令和8年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任年月日	主な現職等
評議員	第1号	篠塚 麻里子	R7.6.19	宝塚医療大学職員・事務局長補佐
		岸岡 史郎	R7.6.19	宝塚医療大学教員・副学長
		平賀 修司	R7.6.19	宝塚医療大学職員
		岸野 政子	R7.6.19	学校法人平成医療学園・理事長補佐 社会福祉法人山の子会理事
		竹本 晋史	R7.6.19	平成医療学園専門学校校長
	第2号	布施 勇貴	R7.11.7	株式会社ARK ROW社員
	第3号	亀井 有太郎	R7.11.7	かめい矯正・小児歯科クリニック院長
		笹川 正明	R7.6.19	プルデンシャル生命保険株式会社社員
		廣石 憲一	R7.11.7	広石歯科医院院長
		吉井 保	R7.6.19	
		工藤 鉄男	R7.11.7	工藤総合接骨院院長

	西尾 頼政	R7.11.7	
	広岡 東吾	R7.11.7	株式会社中日メディカルサービス社員
	樺山 哲男	R7.6.19	株式会社テックス代表取締役
	山ノ下 藤美雄	R7.11.7	やまと鍼灸院
	吉田 重光	R7.6.19	学校法人札幌青葉学園常務理事 北海道歯科衛生士専門学校校長

評議員の選任（寄附行為第33条（抄））

第33条 評議員は、次の各号に掲げる者とし、理事会が評議員の実数の2分の1を超えない範囲で選任し、残りの評議員を評議員会において選任する。

- (1) この法人の職員のうちから選任した者 1名以上5名以下
- (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上のもののうちから選任した者 1名以上
- (3) 学識経験者のうちから選任した者 9名以上

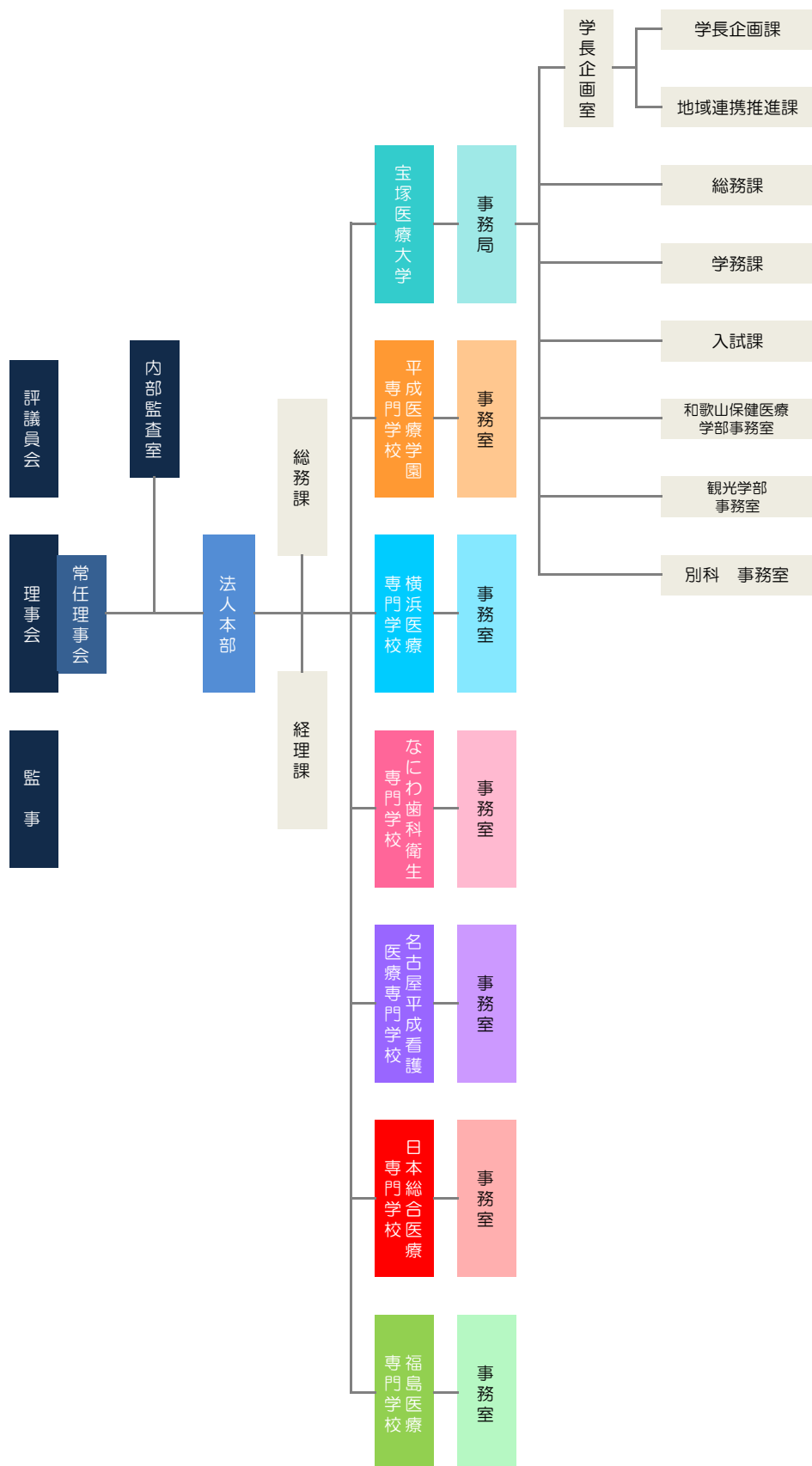
◆ 会計監査人（定数：会計監査人1名）

野原監査法人 令和8年3月13日就任 （令和8年5月1日現在）

◆ 理事選任機関

評議員会

(令和8年5月1日現在)



8 教職員数

(1) 教職員数

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	専任		非常勤者等	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	17	0	2
宝塚医療大学保健医療学部	56	29	27	34
宝塚医療大学和歌山保健医療学部	47	10	40	4
宝塚医療大学観光学部	13	10	7	1
宝塚医療大学留学生別科(東京キャンパス)	20	21	39	3
宝塚医療大学留学生別科(大阪難波キャンパス)	11	7	26	0
宝塚医療大学介護福祉別科	4	2	12	0
宝塚医療大学社会福祉士養成課程	1	0	0	0
平成医療学園専門学校	26	20	67	4
横浜医療専門学校	28	17	31	4
なにわ歯科衛生専門学校	17	8	100	2
名古屋平成看護医療専門学校	33	20	107	8
日本総合医療専門学校	14	7	14	3
福島医療専門学校	34	20	46	3
宝塚医療大学附属介護ステーション	1	12	0	5
福寿リハビリ介護ステーション	1	5	0	2
ふくじゅ居宅介護支援事業所	0	0	0	0
宝塚医療大学附属保育園	0	13	0	7
平成保育園	0	9	0	5
なみきッズ保育園	0	22	0	6
内部監査室	0	1	0	0
合 計	306	250	516	93

(注) 専任教員には助手を含む。

(2) 年齢別専任教員数

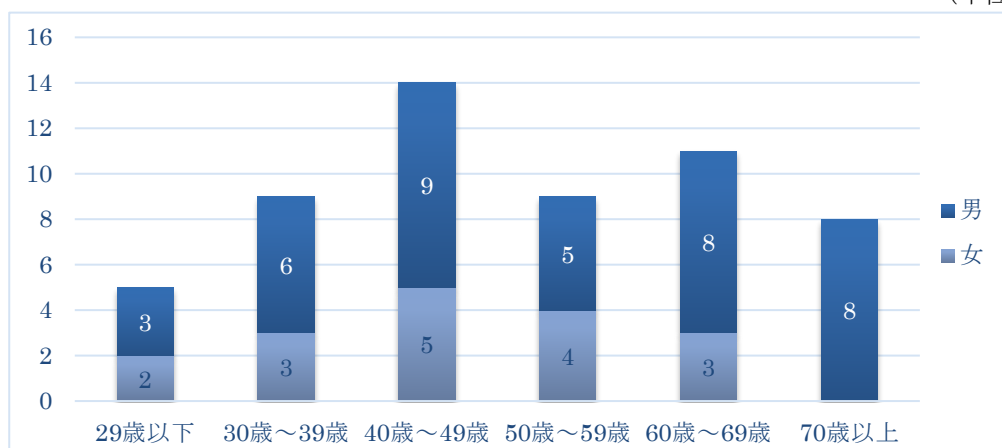
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	3	6	9	5	8	8	39
女	2	3	5	4	3	0	17
合 計	5	9	14	9	11	8	56

年齢別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



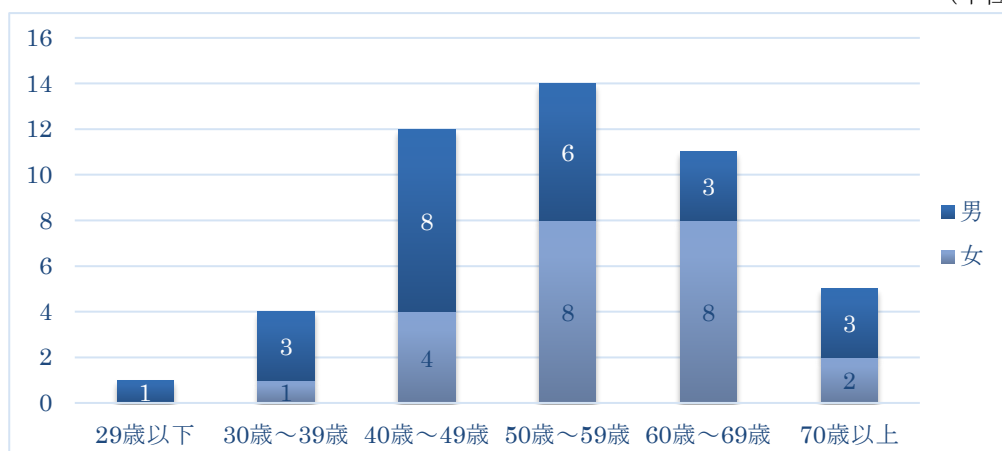
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	1	3	8	6	3	3	24
女	0	1	4	8	8	2	23
合 計	1	4	12	14	11	5	47

年齢別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



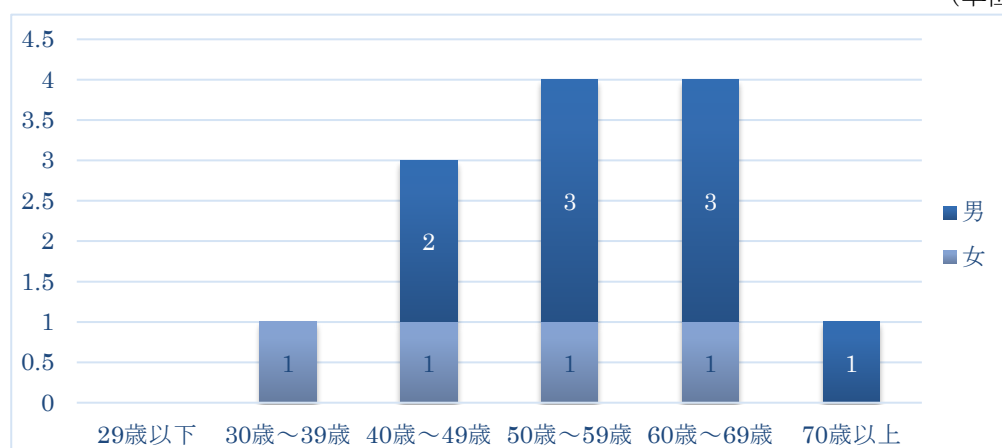
◆ 宝塚医療大学 観光学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	2	3	3	1	9
女	0	1	1	1	1	0	4
合 計	0	1	3	4	4	1	13

年齢別観光学部専任教員数

(単位：名)



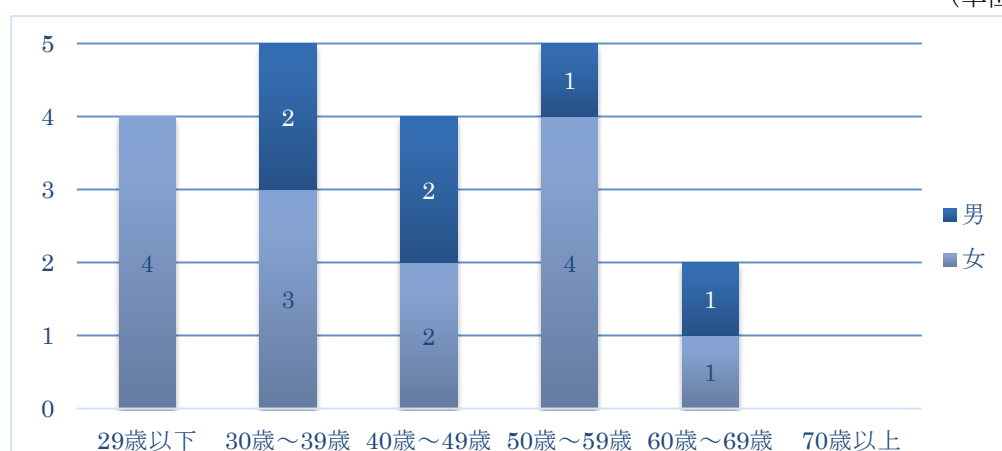
◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	2	2	1	1	0	6
女	4	3	2	4	1	0	14
合 計	4	5	4	5	2	0	20

年齢別留学生別科（東京キャンパス）専任教員数

(単位：名)



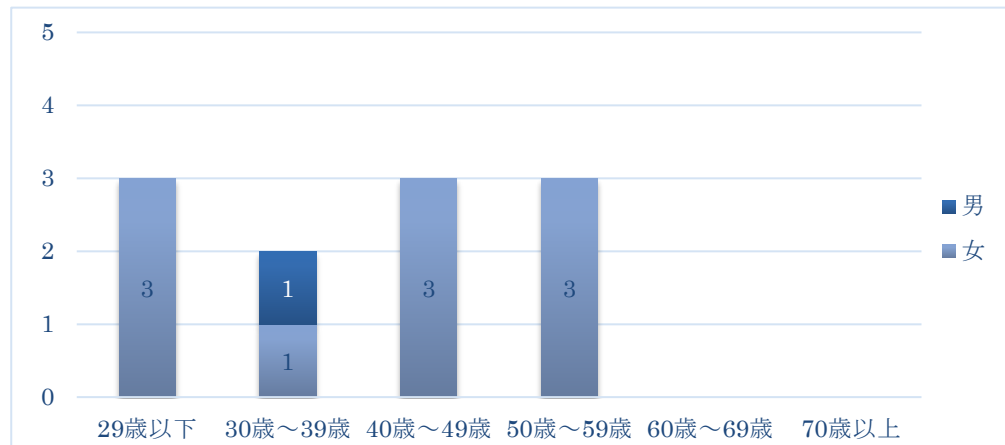
◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	1	0	0	0	0	1
女	3	1	3	3	0	0	10
合 計	3	2	3	3	0	0	11

年齢別留学生別科（大阪難波キャンパス）専任教員数

（単位：名）



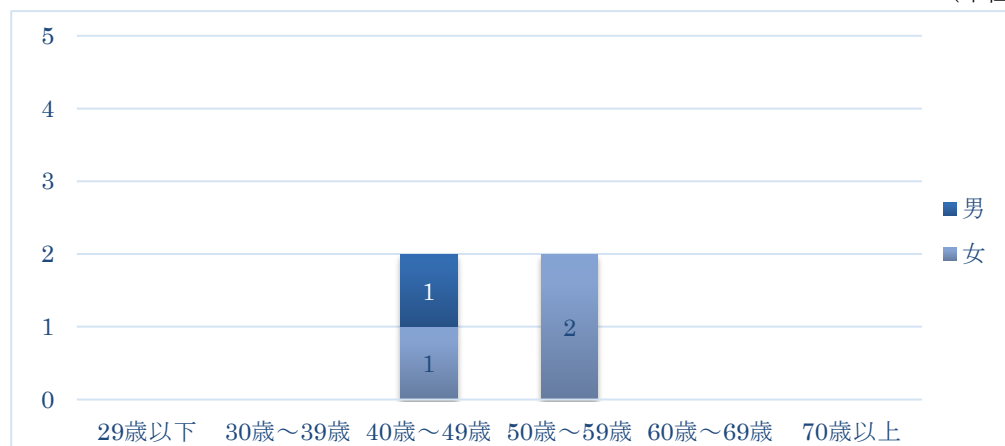
◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	0	0	1	2	0	0	3
合 計	0	0	2	2	0	0	4

年齢別介護福祉別科専任教員数

（単位：名）



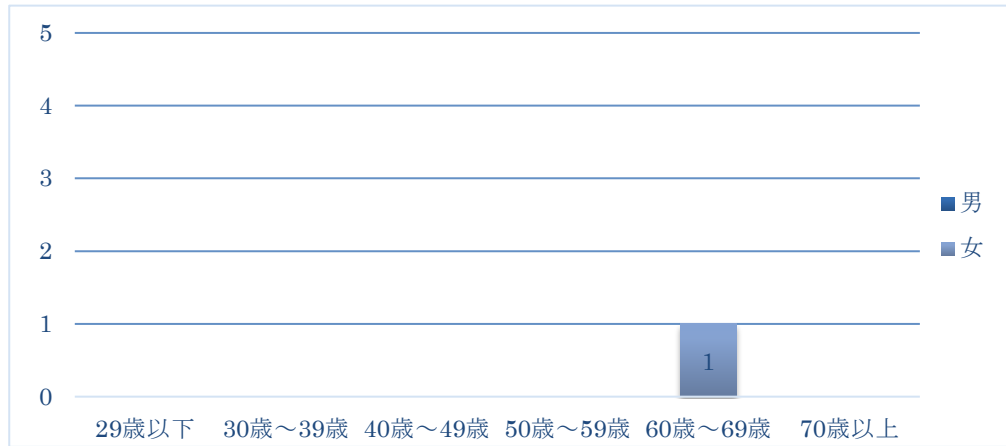
◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	1	0	1
合 計	0	0	0	0	1	0	1

年齢別社会福祉士養成課程専任教員数

(単位：名)



(3) 職階別専任教員数

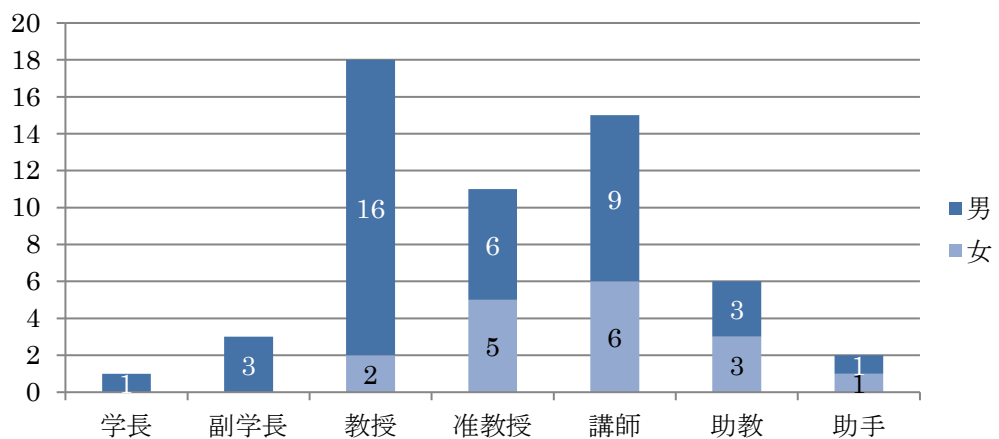
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	1	3	16	6	9	3	1	39
女	0	0	2	5	6	3	1	17
合 計	1	3	18	11	15	6	2	56

職階別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



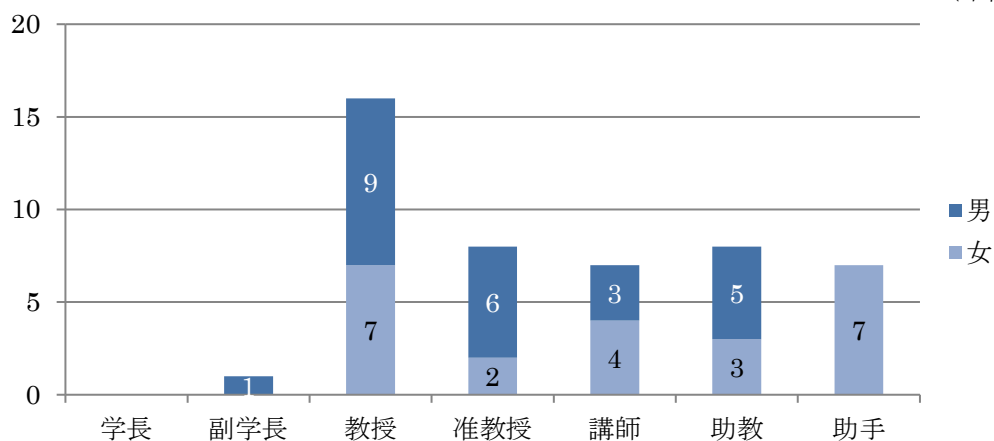
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	—	1	9	6	3	5	0	24
女	—	0	7	2	4	3	7	23
合 計	—	1	16	8	7	8	7	47

職階別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



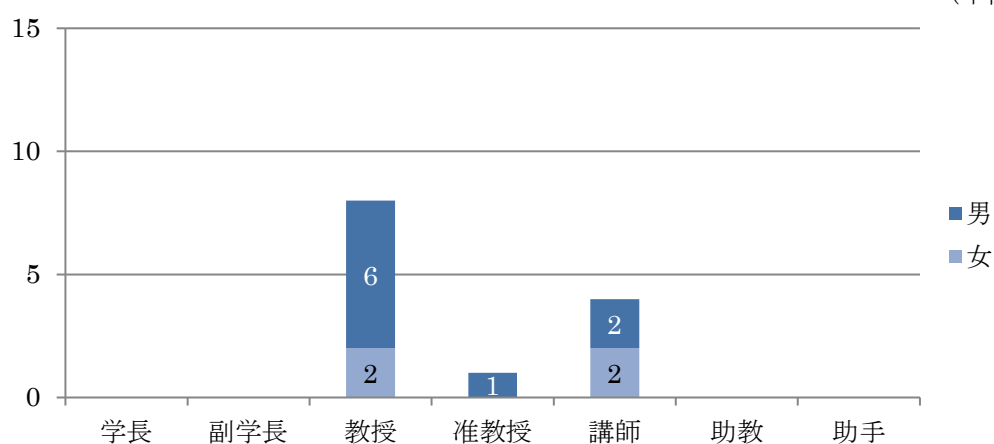
◆ 宝塚医療大学 観光学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	—	0	6	1	2	0	0	9
女	—	0	2	0	2	0	0	4
合 計	—	0	8	1	4	0	0	13

職階別観光学部専任教員数

(単位：名)

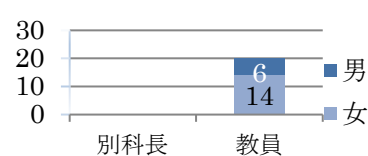


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	別科長	教員	計
男	0	6	6
女	0	14	14
合 計	0	20	20

職階別留学生別科（東京キャンパス）専任教員数 (単位：名)

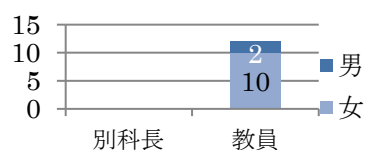


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	別科長	教員	計
男	0	2	1
女	0	10	10
合 計	0	11	11

職階別留学生別科(大阪難波キャンパス)専任教員数（単位：名）

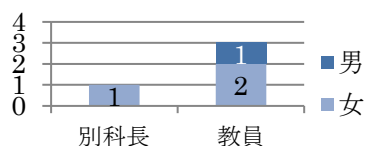


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	別科長	教員	計
男	0	1	1
女	1	2	3
合 計	1	3	4

職階別介護福祉別科専任教員数（単位：名）

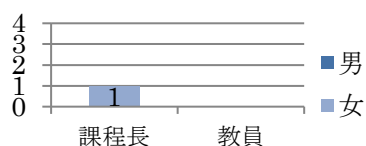


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	課程長	教員	計
男	0	0	0
女	1	0	1
合 計	1	0	1

職階別社会福祉士養成課程専任教員数（単位：名）



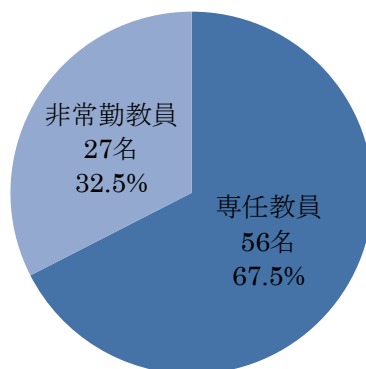
(4) 専任教員・非常勤教員比率

◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	56	67.5%
非常勤教員	27	32.5%
合 計	83	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

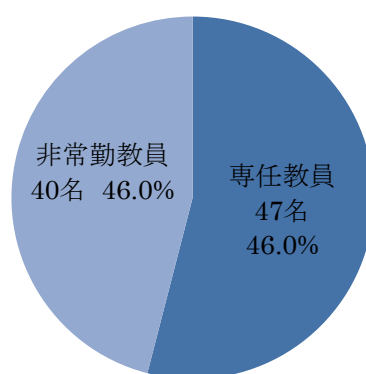


◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	47	54.0%
非常勤教員	40	46.0%
合 計	87	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

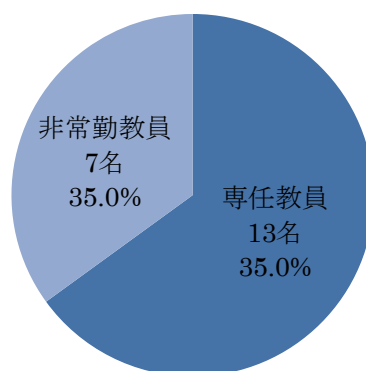


◆ 宝塚医療大学 観光学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	13	65.0%
非常勤教員	7	35.0%
合 計	20	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

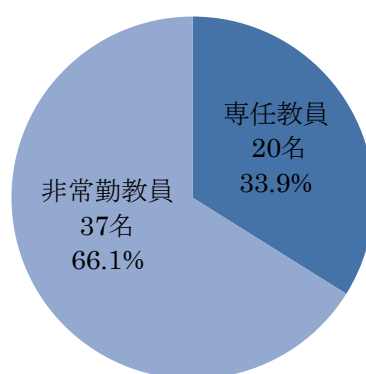


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	20	33.9%
非常勤教員	39	66.1%
合 計	59	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

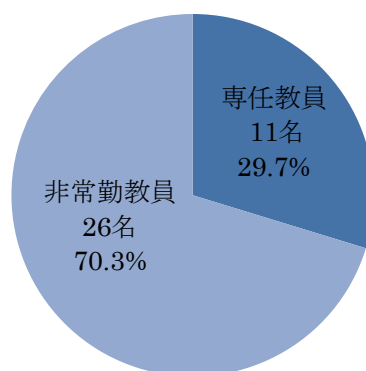


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

（令和8年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	11	29.7%
非常勤教員	26	70.3%
合 計	37	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

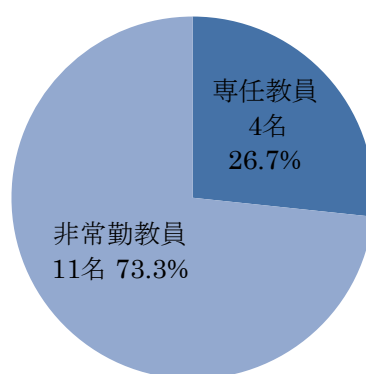


◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	4	26.7%
非常勤教員	11	73.3%
合 計	15	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

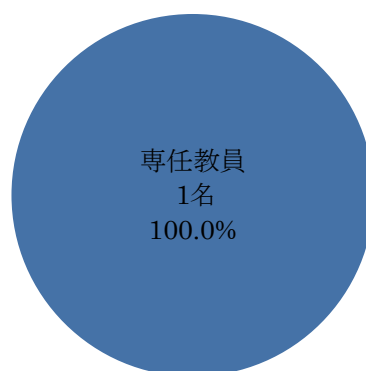


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	1	100.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	1	100.0%

専任教員・非常勤教員比率



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

(1) 宝塚医療大学

① 入学者の確保

令和7年度学生募集においては、保健医療学部、和歌山保健医療学部、観光学部、留学生別科、介護福祉別科及び社会福祉士養成課程で以下の通り募集活動を実施しました。

【保健医療学部】

令和8年度の入学人数は、保健医療学部 理学療法学科48名(入学定員充足率68.6%)、柔道整復学科27名(同45.0%)、鍼灸学科22名(同73.3%)、口腔保健学科18名(同60.0%)、学部全体で115名(同60.5%)となり、昨年度の118名(同62.1%)より3名減少しました。以下、募集活動の各取組と総括を述べます。

① 資料請求

資料請求数は本年度総計5,793件(前年度5,903件)でした。ここから、「和歌山保健医療学部」「観光学部」への請求件数を除いた数値、すなわち保健医療学部単独の資料請求数は、令和6年度4,952件に対し令和7年度は4,879件でした。残念ながら前年度を少し下回る結果となりました。

② SNS

一方資料請求数に影響力の大きいSNS媒体の活用については、活性化を進めました。令和7年度より教員と入試課が協働で「プロジェクトチーム」を立ち上げるとともに、撮影や編集の一部を業者に委託するなど、内容の充実を図りました。発信頻度も、Instagram(127件→130件)、TikTok(7件→58件)となり、ともに増えました。

③ オープンキャンパス

オープンキャンパスへの高校3年生の動員延べ数は、令和6年度の239名から308名へと29%増えました。実施回数を昨年度の12回から14回に増やしたことが要因の一つと考えられます。また3月のオープンキャンパスを地元二府県(大阪府、兵庫県)の公立高校入試日(当日在校生は登校禁止。部活動等で休日参加が難しい生徒もこの日は参加可能)に合わせるなど工夫を加えたことも功を奏しました。

④ 高校訪問

受験早期化の影響を強く受ける本学は、受験者が志望校を絞る時期である高校2年11月から高校3年10月までを「志望校絞り込み期間」と位置づけ、年度単位ではなくこの期間で訪問数を比較しました。令和7年度入学生の「絞り込み期間」の訪問数は535件、令和8年度入学生の訪問数712件でした。187件の増加です。

⑤ ガイダンス

進路ガイダンスは高校生に本学のよさを直接伝えられる機会として、重視しています。6年

度は91名の高校3年生と接触し22名が入学、法人から予算増を認めていただいた令和7年度は直接接触した236名から32名を入学に導きました。ただし、入学実数は増加したものの、獲得率が24%から14%に下がっていることを入試課内で反省し、現在入試課においてガイダンス対応に関する教職員の研修の強化などの対策を図っています。

◎総括

令和7年度の募集活動において、オープンキャンパスの高校3年生の動員数の増加をはじめとするいくつかの「向上の兆し」は見られました。しかし必ずしもそれは令和8年度入学者の獲得にはつながりませんでした。最大の原因は、令和8年度の高校3年生の志望の特異な内訳にあります。オープンキャンパスにおける各学科の高校3年生動員数の定員に対する割合が理学療法学科（103%→153%）、鍼灸学科（97%→130%）、口腔保健学科（90%→113%）と、大幅に増えているのに、柔道整復学科だけが（127%→92%）下降する結果となりました。それも7年度は100%を割る数字です。これでは記録的に低い充足率になるのは必然です。はじめに挙げた3学科はいずれも定員充足率を改善させています。しかし柔道整復学科の落ち込みを解消するほどの増加には至らなかったというのが実情です。原因は未だ究明できていません。こうした傾向が一過性のものか、そうでないのか、引き続き情報収集に努めます。一方で、手立ては打ち始めております。この学問分野と親和性の高い高校生集団への出前授業を実施するなど、持てる資本の集中投下を行っているところです。

また、適切な入学定員を確保する観点から、令和8年度から口腔保健学科の新規学生募集については、停止する予定です。

【和歌山保健医療学部】

和歌山保健医療学部では、ホームページの他、進学情報誌・サイト（媒体）により広く告知し、また、SNS媒体での展開や、地元ラジオ放送において全8回シリーズの情報発信を実施し、保健医療学部の教育内容や特色、学生の学び、国家資格職としての魅力等を広く地域へ紹介することで、学部の認知度向上と広報活動の充実を図りました。オープンキャンパスは和歌山キャンパスで7回開催し336名の参加となりました。

高校訪問では和歌山保健医療学部では延べ43校を訪問しました。進学ガイダンス、出前授業については、延べ64会場で開催しました。入学実績のある和歌山県内の高等学校を対象として訪問し模擬授業を行いました。高等学校訪問・オープンキャンパスともに、模擬授業はなるべく演習型で生徒さんが体験を通して学べる授業にして興味をもってもらえるように工夫しました。進学ガイダンス、出前授業は、令和7年度実績とほぼ同程度でした。

これらの取組の結果、令和8年度の入学者数は和歌山キャンパスで和歌山保健医療学部リハビリテーション学科46名（同46.0%）、看護学科46名（92.0%）、学部全体で92名（同61.3%）となりました。

【観光学部】

令和7年度の入学試験においては、受験者数が前年度の188名から261名へと大幅に増加しました。入学者数についても、前年の51名から75名へと増加し、志願者と入学者ともに入学定員確保に向け、大きく改善する結果となりました。

また、昨年度の課題であった日本人入学者については4名の入学があり、一定の改善が見られました。この要因としては、募集活動における積極的なガイダンス参加や説明会の実施が効果を上げたものと考えられます。今後は、受験者と入学者数の増加傾向を継続させるとともに、日本人入学者のさらなる獲得が重要な課題と考えています。

【留学生別科】

留学生別科については、外国人留学生の受入れを中心とした広報活動を実施しました。オン

ラインで現地学生と継続してコンタクトをとりました。また国内においては、介護留学生支援企業との提携、日本語学校へのアプローチを積極的に行いました。次年度の募集に向け、オープンキャンパスの早期開催などの対応を行います。

留学生別科（東京キャンパス）876名大阪難波キャンパス206名となり、1年間をとおして計画的な募集活動を実施しています。また、日本語認定学校の申請に向け、東京キャンパスでは1,000名、大阪難波キャンパスでは400名での申請を目指して準備を進めており、確実な入学生確保に努めています。

コロナ禍の影響はほぼ無くなったと考えられますが、一方で戦争等の影響で入国審査に時間を要し、学生の受け入れ時期が遅れる問題が発生しています。

【介護福祉別科】

介護福祉別科における国内留学生向けのオープンキャンパス参加者数は237名となり、令和7年度実績（171名）から38%増加しました。また日本語学校へ赴いてのガイダンス、遠方の日本語学校へのWEBによる説明会を随時実施いたしました。受験者は80名となりましたが、入学前辞退があったことから入学者は58名（入学定員充足率96.7%）となりました。次年度の募集に向け、オープンキャンパスの早期開催や日本語学校へのアプローチ等の対応を行います。

【社会福祉士養成課程】

社会福祉士養成課程については、通信制ということ、また受験要件が設けられていることから、インターネットを中心とした広報活動を行いました。令和7年度は、一般養成課程は増加しましたが、短期課程が前年よりも減少し、一般養成課程27名（充足率19.3%）、短期養成課程4名（同6.7%）となりました。

社会福祉士養成課程は、短期課程については、令和8年度から募集を停止しており、一般課程についても令和9年度入学生の募集を停止する予定です。

② 教育の充実

保健医療学部では、令和5年度から、大きな取組として中途退学者の減少に関する取組を行っています。学部全体での検討会、外部講師を招聘してのFSD研修を行い、各学科、事務局が協働しながら退学者減少に取り組みました。令和7年度も継続してFSD研修の実施、退学者の減少に取り組みました。その結果、令和7年度の退学者数は18名となりました。また、入学年度毎の退学率について、令和7年度は10%になり、退学者減少の取り組みの効果が顕れています。今後も継続して中途退学者の減少に取り組みます。また、4年間で卒業できない、いわゆる留年生については、きめ細かな指導を行うと共に、入学時の目標を達成できるよう支援し、留年生の減少についても取り組みます。

また、口腔保健学科の3期生を受け入れ、設置計画に基づき大阪中津キャンパスでの教育も実施しました。口腔保健学科では、完成年度に向けての教育研究活動にかかる整備は完了しています。

一方で、口腔保健学科については、開設年度から入学定員64名に対して入学者が大きく下回る状況であったことから、入学定員を30名に減少する手続きを文部科学省に提出し、令和7年度入学生から適応しました。入学定員は減少しますが、教員組織は現状を維持し、教育研究環境に影響がないように対応しました。口腔保健学科は、令和9年度入学生の学生募集を停止する予定であることから、在学生在が確実に卒業できるよう、教育環境を維持する計画です。

和歌山保健医療学部リハビリテーション学科では、第1期生から引き続き、第3期生も全国平均を上回る国家試験合格率达到し、進路決定率も100%を達成しました。

看護学科では、令和7年度にはじめて卒業生51名を輩出し、全国平均を上回る国家試験合格率98%を達成し、進路決定率も100%を達成しました。就職希望者は全員病院に就職しました。

そのうち、和歌山県内の病院への就職率は90%でした。2名は助産師になるために進学しました。

観光学部では、観光産業に不可欠な日本語と英語の語学力を育成するため、レベル別クラス編成やネイティブ教員による授業が実施されています。これらの取り組みにより、実践的なコミュニケーション能力の向上が見られました。

また、旅行会社やホテル、自治体などでのインターンシップを通じ、観光現場の業務内容や課題を体験的に学び、観光サービスの質を支える実務力の重要性を理解しました。さらに、観光振興には地域との協働が不可欠であることも理解し、観光を多面的に捉える力が身につきました。

留学生別科においては、東京キャンパスと大阪難波キャンパスの2拠点での教育を実施していることから、令和6年度中に教育課程を見直し、双方のキャンパスで、同様の内容で教育が実施できる体制を整えました。

介護福祉別科では、7期生の受入れを行いました。また5期生60名のうち58名が介護職の進路に就くことができました。令和8年度も継続して介護専門職の養成に努めるとともに、実習施設の拡大、日本語教育の充実を進めていきます。

令和4年度に開設した社会福祉士養成課程においては、通信制の特性を最大限に活用し、広域からの学生確保に注力するとともに、全国のグループ校をスクーリング会場として提供することで受講環境の利便性を向上させました。教育運営においては、対面による直接的な学生フォローとGoogle Classroom等のデジタルツールを組み合わせた重層的な学習支援を展開しており、通信制課程特有の課題である学習上の孤立を効果的に防止しています。その結果、退学率を10%台という低い水準で維持しており、入学から修了まで一貫して支援する教育体制を堅持しています。また、厚生労働省の「一般教育訓練給付制度」の指定対象校としての認定を受け、社会人のキャリアアップ支援を強化しました。

開学以来、継続して実施している学部における授業評価アンケートについても、継続して実施し、フィードバックを行いました。これらの取組を通して教員の教育力向上を図るとともにアンケートの結果をわかりやすくまとめ、過去3年分の前・後期の授業評価アンケート以降全体の集計結果を教育情報として公表しています。

令和6年度は、機関別認証評価の受審年度であり、全学において機関別認証評価受審に向けての書類作成、準備を行いました。また、機関別認証評価における実地調査においては、他大学の例など様々なアドバイスを受け今後の改善に繋がるものとなりました。一旦は適合の判定を受けましたが、看護学科の教授数が1名不足していたことから、再審査が行われ、不適合の判定となりました。令和7年度中に教員の公募及び昇進の手続きを行い、当該指摘事項は改善されました。

現在、口腔保健学科、観光学科が学年進行中であることから、着実な設置計画の履行を行い、次回受審時には確実に適合の判定が受けられるよう、準備を進めます。機関別認証評価については、令和10年度に再度受審する計画です。

③ 研究の充実

全学的な研究推進体制の下で、保健医療学部においては、統合医療及び予防医学に関する研究並びに基礎医学分野の科学研究を実施し、「理学療法学」及び「口腔保健学」に関する研究内容の充実を図りました。「柔道整復学」、「鍼灸学」については、エビデンスを構築し、附属治療院の充実を図り、特色ある研究の推進に努めました。

さらに、学内において研究成果発表会を定期的に実施するとともに、宝塚医療大学紀要第10号を発行しました。また、「科学研究費補助金」等の公的研究費を獲得することを研究者個々の使命として位置づけて研究推進を図るとともに、研究推進委員会においてブラッシュアップを図りました。

学長裁量経費の活用として、科学研究費助成事業に不採択であった研究を対象に、学内で選考を行い、大学として研究を支援する取組を行い、令和7年度は13名（保健医療学部6名、和歌山保健医療学部5名、観光学部2名）の教員に対して研究費の助成を行いました。令和6年度に助成した研究課題について、再度科学研究費助成事業に応募した結果、3件が採択されました。

和歌山保健医療学部では、上記の学長裁量経費による研究助成に加え、同県内の近隣大学、病院等との連携を図り、共同研究や教員の研修など、研究体制の構築を図るとともに、地域の特徴に即した研究体制を整備しました。

観光学部においては、観光学の研究推進のため、設置計画に基づき研究室、図書の購入などの環境の整備を行いました。また、学長裁量経費による研究助成についても、新たに2名が採択されるなど、研究を推進しています。

④ 国家試験対策の充実

保健医療学部では、令和6年度の試験結果を踏まえ、各学科に設けた国家試験対策部会等において一層の教育内容の充実を図りました。具体的には、早期からの対策講義の継続的实施及び業者による模擬試験や姉妹校との合同模擬試験を計画的に実施し、試験結果の詳細な分析により、学生の弱点を把握し個々の学生の状況に合わせた綿密な指導を行い、学生の学習意欲の向上に努め国家試験合格率の向上を目指しました。

また、学年進行中の口腔保健学科を除く全ての学科の4年次生を対象とした宿泊を伴う合宿形式の国家試験対策を令和7年度においても実施しました。これらの取組の結果、保健医療学部理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科では、令和7年度の国家試験合格率が全国平均を上回りました。

また、国家試験に合格できなかった卒業生に対しては、国家試験対策を中心に継続的な支援を行い、入学当初の目標を達成できるよう卒業後の国家試験対策の体制強化に努めました。

和歌山保健医療学部リハビリテーション学科では令和7年度に第3期生を輩出しました。これまでの経験を活かし実施してきた国家試験対策をさらに充実させ、模擬試験や個別指導などを通じて学習支援の強化を図ってまいりました。その結果、令和7年度国家試験において、理学療法学専攻は98.4%、作業療法学専攻は91.9%と、いずれも全国平均を上回る高い合格率を達成しました。

看護学科では、令和7年度にはじめて卒業生51名を輩出しました。全教員が協力して模擬試験や小グループによる指導などを行いました。その結果、全国平均を上回る国家試験合格率98%を達成しました。

社会福祉士養成課程では、国家試験対策については、Google Classroomを活用した反復学習支援に加え、国家試験対策講座の開講により通信制という制約下においても高い合格率を維持・向上させるプログラムを構築しました。定期的な全国統一模擬試験の実施により客観的な学習到達度を把握し、その分析結果に基づき、専任教員が学生個々の進捗や不安に応じたきめ細やかな個別フォローを継続して行っています。これらの取組の成果として、第38回社会福祉士国家試験（令和7年度実施）では、一般養成課程および短期養成課程の双方において全国平均を上回る合格率を達成し、本課程の教育プログラムの有効性が実証される結果となりました。

⑤ 就職支援の充実

【保健医療学部】

キャリア開発センターでは、医療人としての動機形成がなされるように入学期に「大学生活スタートアップマナー講座」を実施しています。また、継続して医療人としてふさわしい立ち居振る舞いができるよう、2年生には「実習前医療接遇マナー講座(基礎編)」、3年生には「実習前医療接遇マナー講座(実践編)」を行うなど、医療人として学生の自覚と成長を促しながら、社会に通用する宝塚医療大学のブランド力の向上に努めています。

また、キャリア開発センターが作成した「学生自身が記入するキャリアシート」を用いて、学生個々人の職業意識の向上を図り、有意義な学生生活を過ごせるよう入学時から教員による支援を行っています。この支援に並行して、入学時に学生個々人の言語・非言語の基礎能力検査を実施し、把握しています。この適性検査は、学生にとってより望ましい学生生活を支援するための学修支援を実施する際に、参考資料として活用しています。

さらにキャリア開発センターでは、求人情報の検索システムの構築や求人情報の閲覧、進路についての個別相談、(本学所定の)履歴書、エントリーシートの添削や書き方の支援、面接練習を希望する学生には模擬面接の実施など就職試験対策も行なっています。

また、就職情報提供の一環として本学独自の「学内就職説明会」(本年は対面とオンライン併用での開催)を理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科で開催しています。病院、クリニック、トレーニングジム、介護福祉施設、鍼灸整骨院等の医療人や人事担当者、経営者を招いて本学の学生と面談できる機会を設けています。柔道整復学科及び鍼灸学科では5月に「学内就職説明会」(72施設の参加)を実施し、理学療法学科では7月下旬から8月上旬に3日間にわたり、「就職説明会」(オンライン方式および対面方式計80施設の参加)を実施しました。また、理学療法学科では長期臨床実習前の春期に、「国公立および公的医療施設の就職説明会」を個別に実施し、学生の職業意識の向上ならびに就職先のレベルアップと多様化を図っています。さらに長期臨床実習前の4年生に向け、卒業生有志による「オンライン先輩訪問」と称した懇談会を実施しています。卒業生は、臨床での現体験やこれからもキャリア形成の目標について語っていただきながら、学生目線で自身の臨床実習、国家試験勉強法や就職活動などの体験も語ることで、最終学年を迎えた学生が臨床実習への心構え、国家試験勉強の方法、進路選択や就職活動の参考になるよう自覚を促す取組を行っています。

このようなキャリア支援への取組全般に対して、各学科から任命されたキャリア開発センター学生委員(4年生)計8名が、学内就職説明会開催準備や運営のサポート、就職活動学生に対しての模擬面接の実施など、上記業務のサポート等を行いながら、就業意欲を全学生に波及させるという役割も担っています。

【和歌山保健医療学部】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科では、令和8年3月に第3期生を輩出しました。中之島キャンパスのキャリア開発センターを中心に、模擬面接や試験対策講座などの就職支援を実施するとともに、教職員が連携して就職説明会や個別指導の充実を図りました。その結果、第1期生、第2期生に続き、就職希望者の内定率100%を3年連続で達成しました。

看護学科では、令和7年度にはじめて卒業生51名を輩出しました。就職説明会を開催し、学生個別に就職支援を実施しました。その結果、就職希望者の就職決定率100%を達成しました。就職先は全員病院で、和歌山県内の病院への就職率は90%でした。2名は助産師になるために進学しました。

【社会福祉士養成課程】

社会福祉士養成課程においては、通信制で学ぶ学生の多くが既に福祉・医療等の現場に従事している実態を踏まえ、個々のキャリア形成に資する支援を展開しました。

具体的な取り組みとして、Google Classroom等のデジタルツールを活用し、全国の医療・福祉機関からの求人情報や、社会福祉士の職域拡大(司法福祉、スクールソーシャルワーカー等)に関する最新動向を随時提供しました。また、随時、専任教員による個別面談を実施し、資格取得後の職場内でのキャリアアップや、専門職への配置転換に向けた具体的な助言を行っています。これらの継続的なフォローアップの結果、学生は現在の就業継続と並行して、資格取得を通じた専門性の向上や、新たな職域への挑戦に対する明確な指針を得ることができています。

今後は、卒業生ネットワークの構築を視野に入れ、修了後のキャリア支援をさらに強化していく方針です。

⑥ 社会貢献の充実

保健医療学部では、令和7年度は、地域での講習会や公開講座、地域イベントなどを積極的に行いました。

地域住民を対象とした健康増進や生活習慣病対策など、医療系大学の特色を活かした公開講座については多くの方が参加しました。

毎年実施している高大連携事業の一環として、兵庫県立川西明峰高等学校3年生を対象とした「生涯スポーツ」の講義（約40名参加 全16回）を本学にて実施しました。柔道、サッカー、経絡武道をはじめ、各学科での実技や講義を取り入れました。

中学2年生を対象とした兵庫県独自の取り組みである「トライやるウィーク」についても、近隣中学校（1校、4名）からの実施を受け入れました。

附属治療院においては、近隣住民の健康治療に貢献するとともに附属介護ステーションでは、機能訓練に特化した地域密着型通所介護事業を行い、地域福祉に貢献しました。附属介護ステーションについては、令和7年度から新たに附属介護ステーション芦屋を開設し、介護事業の充実を図りました。また、附属保育園では、企業主導型保育園として、地域の待機児童の減少に貢献しています。

また、楽天ヴィッセル神戸株式会社との提携に基づくサッカーのクラブチームである「ヴィッセル神戸伊丹U-15」の本学グラウンドでの夜間練習についても適宜実施しました。

和歌山保健医療学部では、旧中之島保育園の利活用に向け、和歌山市および地元自治会と連携協定を締結し、地域交流拠点「中之島つどい館」を開設しました。現在は地域と協働しながら施設運営・活用を進めています。

看護学科では、「中之島つどい館（旧中之島保育園）」を活用し、国家試験対策の補充授業や学内演習等を実施するなど、教育活動の充実を図りました。また、学友会を中心に、警察・消防と連携したボランティア活動をはじめ、スポーツイベント、地域祭り、清掃活動などへ積極的に参加し、地域貢献活動を推進しました。

さらに、和歌山地区における母子防災活動に看護学科教員が参画し、災害時に不安を抱えやすい母子への支援活動に取り組んでいます。リハビリテーション学科においても、地元自治会と連携した体力測定等を実施し、地域住民の健康増進に寄与しています。

観光学部の宮古島キャンパスでは、地域住民と協働し、道路や公園、海岸の清掃活動を行いました。この活動を通じて、地域の環境美化に寄与するとともに、住民との交流を深めることができました。特に宮古島の観光資源でもある海岸清掃では、漂着ごみの多さから海洋ごみ問題の深刻さを認識し、環境保全に対する意識の向上につながりました。また、宮古島開催されるトライアスロン大会において、給水所運営と安全管理の補助を担当しました。当日、選手からの感謝の言葉を受け、スポーツイベントにおける運営支援の重要性を理解する機会となりました。

また、本学教授による公開講座において、お灸の基礎知識およびセルフケア方法の指導を行いました。東洋医学の基本的な考え方や安全な施灸方法を分かりやすく解説し、参加者の健康意識向上に寄与しました。講座終了後には、参加者から実践意欲や理解の深化に関する意見が寄せられ、地域の健康づくりに一定の成果を上げたと考えています。

社会福祉士養成課程は、地域社会における福祉専門職の育成および確保を強力に支援することで、社会福祉の増進に寄与しています。

特に、本課程が主体となって年2回実施している「社会福祉士実習指導者講習会」の開催は、実習教育の質の根幹を支える実習指導者を全国へ継続的に輩出する重要な役割を担っています。これにより、本学のみならず福祉業界全体の教育・実習体制の強化に貢献するとともに、各地の医療・福祉現場における指導的立場の人材育成という公的な機能を果たしています。

また、全国の医療・福祉機関との広範なネットワークを構築し、学術的な知見や最新の福祉動向を現場へ還元するなど、地域福祉の基盤強化に努めました。

今後は、司法や教育といった多領域における社会福祉士の職域拡大に向けた広報および教育活動をさらに強化し、複雑化する社会課題の解決に資する専門人材を安定的に供給することで、より多角的かつ広範な社会貢献を展開していく方針です。

⑦ 企業主導型保育園の運営

平成29年の開園以来、宝塚医療大学附属保育園は定員30名で運営を行っております。令和7年度においても宝塚医療大学の教職員による自社枠利用が継続的にあり、教職員の仕事と子育ての両立を支える環境整備に努めることで、福利厚生施設として安定した運営を維持することができました。保育においては、異年齢での関わりを取り入れながら子ども一人ひとりの思いや主体性を尊重した保育を実践し、安心して過ごし成長できる環境づくりに努めております。

今後も、保護者や地域とのつながりを大切にしながら園児が安心して過ごせる保育園運営を継続していきます。

⑧ 宝塚医療大学附属介護ステーションの運営

大阪市東淀川区に設置している「宝塚医療大学附属介護ステーション淡路」は、地域密着型通所介護施設として運営しています。令和7年6月には芦屋市海洋町（ザ・レジデンス芦屋スイート内）において、同様の介護施設「宝塚医療大学附属介護ステーション芦屋」を新たに開設しました。これらの施設はともに、機能訓練に特化した通所介護施設として、地域の高齢者の方に通所型のデイサービス事業を提供しています。また、当該施設は、臨床実習施設としての役割とともに、本学の在学生在が、将来介護事業に携わる際のパイロット事業としての役割も担っています。今後は教育研究分野での活用を図ります。

「附属介護ステーション淡路」の令和7年1月から12月の利用者数計は、820名（要介護349名・要支援471名）でした。1ヶ月平均約68名の利用者が、利用されたことになります。令和6年分の利用者数計は837名（要介護387名・要支援450名）であり、令和7年分と比較すると、概ね横這い状態にあると判断できます。

「附属介護ステーション芦屋」の令和7年6月から12月の利用者数計は、157名（要介護71名・要支援86名）でした。芦屋の利用者の中には介護保険を利用せず、自費負担により68名が利用されています。したがって、開設から12月までの利用者数計は225名であり、1ヶ月平均約32名の利用者が利用しました。

大学が設置する介護施設としての特長を活かし、運営の一層の充実を図るとともに、学部の実習における実習生の受入れなど、大学附属機関としての機能の充実を図ります。なお、令和2年度からは、本学のワークスタディー制度を利用した、学生アルバイトの受入れを継続して行いました。

⑨ 和歌山保健医療学部について

和歌山保健医療学部においては、令和2年度にリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻）を、令和4年度に看護学科を設置し、2学科2専攻の体制で教育研究を実施しています。

看護学科においては、令和7年度、初めての卒業生を輩出しました。西庄キャンパスでの活動も本格化しました。外部実習の実施や国家試験対策など、取り組みを実施しました。

また、和歌山保健医療学部設置に伴う履行状況調査について、令和7年11に報告書を文部科学省に提出し、令和8年3月に指摘事項にあった、看護学科の教授数の不足も令和8年度から看護学科の教授は7名になり、教授数の不足は解消しました。

また、安定的な教員組織の編成のために対策を進めています。

⑩ 観光学部について

令和7年度、51名の入学者を受け入れ、宮古島の自然環境・文化・産業を活かした観光学の学びを実施しました。プログラムでは、ビーチや地下ダム、集落などを巡るフィールドワークを中心に、宮古島の観光資源の魅力と持続可能な観光のあり方について学修しました。学生たちは地域の方々との交流を通じて、観光が地域社会にもたらす価値や課題を多角的に理解し、特色ある観光学の学びを深める貴重な機会となりました。

1期生は、設置計画に基づき兵庫県尼崎市に設立した尼崎キャンパスでの授業がスタートし、観光学の学びを一層深化させ、3学年での専門的学修に備える基盤を築きました。

令和7年度で観光学部の設置計画に関する整備は完了しました。

これまでの入学者は、すべて留学生ですが、新たに留学生のための日本語能力向上を目的とする授業科目を開設するなどの対策を行い、日本語能力の向上を図りながら、観光分野におけるキャリア形成について学べる教育環境の中、充実した大学生活を送っています。

今後、観光学の学びを深めると同時に、国際色豊かな教育環境の充実を図り、在籍している留学生の国の文化に触れる機会を増やすことで、多様な価値観を理解し、グローバルな視野を育む学習環境を実現したいと考えています。また、日本人の入学者のアプローチに注力するための方策として、国内の募集ガイダンスに積極的に参加し、留学生を含む定員充足率の向上に努めたいと考えています。

⑪ 留学生別科・介護福祉別科について

留学生別科については、東京キャンパスでは令和3年度からの学生受入れを始めています。令和5年度から学生を受け入れている大阪難波キャンパス2つの拠点での学生確保を行うため、外部のエージェント等を活用しながら活動を行いました。

留学生の入国に際して、地域や条件によっては入国手続きに時間を要するケースもあったため、入学時期については、4セメスター制を導入し、柔軟な学生の受け入れができるように整備していました。しかしながら、今後認定日本語学校の申請を計画していることから、教育課程の適当性を鑑み、2セメスター制に改めることとしました。

また、令和6年度中に教育課程の見直しを行い、令和7年度入学生から新しい教育課程での教育を実施しましたが、2セメスター制への移行に伴い、教育課程も改めました。留学生別科から本学学部への進学者も徐々に増加しており、今後一層の連携の強化を図ります。また、認定日本語教育への申請に向け、継続して教員の募集・採用を行っています。

介護福祉別科については、令和7年度は58名が入学し、充足率は96.7%となりました。令和8年3月に卒業した第5期生（60名）は、ほとんどが希望の進路（介護福祉系）に就職しています。また、国内の日本語学校からの進学者が増加し、地方からの受験も増加していることから、徐々に本学への認知が高まっていると考えられます。国内の日本語学科への募集を強化し、早い段階での入学生確保に注力しています。

⑫ 新学部・新学科の設置計画について

令和7年度中は特に具体的な新学部・新学科等の設置計画については協議はなされませんでした。

一方で、令和6年度に、石川県加賀市と連携協定を締結し、観光学部加賀キャンパス（仮称）の設置構想について、協議を継続しました。

また、附属治療院については、名称を附属統合医療臨床センターに改め、新たに宝塚キャンパス内にクリニックを設置するべく設計図書・導入機器の決定及び契約を行いました。具体的な改修工事の実施、機器の納入は令和8年度に実施する計画です。

⑬ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和6年度から、令和10年度までの5カ年の中期計画を新たに策定し、これに基づき実施状況

の報告を行い学園全体で共有しています。

当該中期計画は、本学のグループウェアの掲示板に掲載し、教職員への周知を行っています。

令和7年度は、入学定員の適正化に関して、建学の精神に基づく教育の改革を継続して行い、これに伴うFSD研修などの取り組みを実施しました。また、合理的配慮に関する取り組みなど、教育研究環境の充実に継続して取り組みました。

留学生別科については、日本語学校の認定校の申請に向け、教育課程の見直しなどの準備を順次進めました。また、留学生の募集について、東京キャンパスに集約するなど、組織の効率化を図りました。

一方で中期計画に示されている学園全体の新しい取組に関しては、十分な対応が行えているとは言えず、令和8年度以降、学園内における学校間の連携が重要になると考えられます。

⑭ 施設設備の整備

令和7年度は、大規模な工事や機器の整備は行いませんでした。

観光学部の尼崎キャンパスの使用が令和7年度から開始されました。設置計画に基づき、教育・研究に関する整備を実施しました。

宝塚キャンパスにおいては、設備の適宜更新を行うと共に、情報処理室の無線LANアクセスポイントの増設に向けた準備を行いました。

このほか、各キャンパスにおいて、適宜教育環境の整備を行いました。

⑮ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

本学では、平成29年度の学生募集から、全国柔整鍼灸協同組合が設立母体であることをパンフレット等でアピールし、産学連携が充実した大学であることを明確にしてきました。令和8年度の学生募集においても業界団体との連携を継続して発信しました。

また、保健医療学部柔道整復学科及び鍼灸学科では、毎年4年次生に対して業界説明会を実施しており、全国柔整鍼灸協同組合から講師を招聘し、柔道整復及び鍼灸に係る最新のトピックスやこれからの業界の展望等について講演を実施しています。

また、外部評価委員に全国柔整鍼灸協同組合の事務局長に就任いただき、本学の自己点検評価書に基づき、業界からの意見をいただくことで教育・研究及び運営についての改善に役立てています。

(2) 平成医療学園専門学校

① 入学者の確保

医療専門課程では、更なる学校認知度向上に向け、高校生や社会人といった各属性への訴求メッセージの統一を図り、教職員間での情報共有と教職協働体制を更に強化しながら、学校全体として学生募集活動に邁進しました。

大阪・兵庫、京都・滋賀・奈良の関西重点地域からの入学者確保に向けた高校訪問強化や高校ガイダンスへの参加を行い、高校3年生向けだけでなく、高校1、2年生向けの高校ガイダンスや模擬授業、出張授業にも積極的に取り組みました。

高校訪問においては、進路指導担当教諭及び担任教諭の他、各クラブ顧問への面談を行い、来校や高校ガイダンスで接触した生徒の情報を漏れなく報告する事に注力しながら、高校との関係構築に取り組みました。

高校との関係構築が進んできたことから、出張授業の依頼が増加しており、次年度以降の募集に反映できる体制を構築しつつあります。

オープンキャンパスでは、来校者のニーズや属性に合わせて、職業理解や活躍できるフィールドの多彩さ、本校の強みがダイレクトに伝わるイベントや入試情報や面接対策の他、保護者向けの説明会や卒業生イベント等、内容を細分化して実施し、出願率向上に取り組みました。

ホームページやパンフレットにおいては、本校の強みである、プロスポーツチームとの繋がり・業界団体との繋がり・関西トップクラスの国家試験合格率・多彩なゼミ・学外実習の充実・卒業後のフォロー等、比較される他校との差別化を図りながら訴求しました。

更に、志願者増加と認知度の向上を目指し、SNSの配信や、進学情報媒体、ホームページ等のWEB媒体を属性別に活用しながら、わかり易く、受け入れられ易いイメージで定期情報発信を行いました。

文化・教養専門課程においては、概ね定員を確保することができました。いずれの学科も入学辞退が発生するため、それを含め定員の充足を図ることを今後の目標とします。日本語学科では、従来からの仲介業者と連携し、書類審査だけでなく学生一人一人とweb面接を実施し、日本語レベル、学習意欲を確認し可否を決定しました。

応用日本語学科においては、各日本語学校への広報活動に力を入れ、実績のある日本語学校だけではなく、近隣校へ赴き、学科のアピールを行いました。

② 教育の充実

『徳義の涵養と人間性尊厳の実践』は本学園の理念であり、全教職員が十分に理解した上で教育にあたりました。

また、今年度も『最低でも国家試験合格』をキャッチフレーズに、学生に寄り添った教育体制で挑みました。その甲斐があり、鍼灸師科では国家試験合格率はり師100%、きゅう師97.4%でした。

柔道整復師科の国家試験合格率は91.7%でした。共に100%には及びませんでしたが、全国平均を上回る合格率でした。

1年生では早期の離脱防止を目的に、独りぼっちを防ぐ為、仲間づくりの場を提供しました。初年次教育として業界の歴史や、医療人として必要な道德心、高貴な医療人としての精神についての説明を行いました。

1年生では4月に行う導入授業に実技授業を多く取り入れ、自身が目指す医療人をイメージしやすくしました。加えて、学生自身が興味を持った内容に関する研究発表を行いました。

これは、昨今の学生は読解力が乏しいため、論文や文献を読ませて、幅広い専門知識への理解を高めさせ、2年生では卒業課題に取り組み、3年生での学術発表に繋げることが狙いです。

この研究発表から学術大会を通じて学問の奥深さを知ってもらうことを目標に行いました。

2年生は臨床実習で学外における活動が多くなり、自身が目指す将来像をイメージできるようになったと考えます。そのような中で、現場力が高まり、学習への意欲が増した結果、成績の向上に繋がったと考えます。

1年生と2年生には3限目に演習科目を入れ、分からない所をそのままにすることなく、その場で解決し、知識の定着を図りました。

3年生は4月の合同模擬試験後に成績不良者に対して面談を行い、学習環境の整備とモチベーション向上を図りました。夏以降はチューター制を導入し、徹底的な学力の向上を図りました。

ゼミについては、毎年受講人数を確認して、学生に人気のあるゼミを継続開講し、また業界で話題となっている講師を招聘して学生のモチベーションアップを図りました。

教育については、また、柔道整復師と鍼灸師のダブルライセンス取得を目指す学生もいることから、鍼灸施術を併設する柔道整復施術所（いわゆる鍼灸接骨院）で必要となる運動器疾患や疼痛を改善させるための柔道整復手技以外の鍼灸技術力向上のために、柔道整復師と鍼灸師の資格を有する教員の授業を臨床実技として実施しました。

柔道整復師科においては、令和7年度も他校に類を見ない台数の超音波画像観察装置を使用し、全ての学生が卒業までにその装置を使いこなせることを目標とした教育を行いました。また、スポーツ現場の実習においても、学生自ら超音波画像観察装置を使用することのできる機会を設け、将来を見据えて実践を積みました。

③ 国家試験対策の充実

令和7年度の国家試験合格率は柔道整復師科では、91.7%でした。鍼灸師科では、はり師100%、きゅう師97.4%でした。共に100%には及びませんでしたが、全国平均を上回る合格率でした。

対策は平成医療学園グループ校間で行われる合同模擬試験をベースに進めました。年度始めには昨年度の振り返りから、問題の難易度等を各校の合同模擬試験対策委員で協議し、令和7年度の方向性を決めました。学園グループ間でローテーションを組んで問題作成することで偏りのない問題が作成でき、グループ校の全学生を対象に比較することで、分母が増え、学生の成績を正確に測ることができました。

グループ校合同模擬試験は年4回実施し、国家試験合格を最終目標とする学習到達度をその都度、国家試験対策委員と合同模擬試験委員と担任で会議を開きました。

会議後は4月から学生面談や保護者面談を実施しました。この面談では学生個々の生活環境を聴取し、学習時間の確保について指導しました。

また、保護者面談にあたっては、学校だけでなく家庭での学習状況も聴取し、必要な環境改善を指導しました。成績不良者には補習だけではなく、チューター制を導入し、学生個々に合わせたきめ細かな学習指導から成績の向上を目指しました。

加えて、全国柔道整復学校協会主催の統一模擬試験を利用し、全国レベルでの学習習熟度を測ることで、国家試験への更なる意識付けができました。

また、校内実力テストによる個々の得意不得意科目を分析し、教育内容にフィードバックしました。柔道整復師科では学生が速く勉強へ取り組むことができるように、令和6年度から9月に卒業総合中間試験を実施しています。

その結果、12月に実施する卒業総合試験では成績不良者の人数が減るようになりました。

鍼灸師科では卒業総合1次試験、2次試験を実施することで幅広く問題が作成でき、学生の学習到達度が正確に把握できました。

柔道整復師、鍼灸師共に国家試験の難易度が変化する為、幅広く、また奥行きを持った知識の構築が必要な為、また、安定した知識を定着させるために長期的な計画で指導しました。特に解剖学や生理学等の基礎医学は点数配分も多いため、3年間を通して指導しました。

具体的には、授業以外に1年次から解剖学や生理学の演習授業を取り入れ、学生の理解度を高め、演習だけでなく解剖学と生理学のゼミを開講し、全学生が学べる環境を提供しました。このゼミにより、学生間の交流促進や、学科や学年という垣根を越えた学生同士での学び合いの場ができました。

毎年の検討課題ですが、1年次と2年次においても平成医療学園グループで実力テストを実施し、自身の学習習熟度を認識させ、学生自らが学ぶ意欲を持てるようにしたいです。

国家試験浪人生を受け入れている予備校「平成塾」も例年通り開講し、受講者5名中、3名が合格しました。

④ 就職支援の充実

医療専門課程では、キャリアサポート室にて各企業からの求人を受け付け、それを教職員へ共有して精査する過程を継続しました。

求人管理システムを導入し、いつでも情報提供ができる環境を整えた反面、情報量が多すぎて学生が判断基準を持ってないという課題も新たに見つかりましたが、窓口やTeamsでいつでも質問できる環境を作ることで改善を図りました。

また、令和7年度は学科と協働して、キャリア意識を高めるための外部企業による実技講座や就職活動マナー講座を強化し、社会に出ていく準備段階であることを意識づけるよう取り組みを拡大しました。

3年生においては、全学生の進路面談を実施し、学生個々の進路状況を把握・分析することでミスマッチが起らないよう、細やかなサポートに努めました。

就職活動のサポートに関しては、就職担当スタッフだけでなく担任教員も携わり、やりたいことを見つけるところからサポートできるよう体制を整えました。

企業説明会については、外部の企業説明会を学生へ案内するだけでなく、校内での合同企業説明会や施術体験会も開催しました。就労環境だけが動機となる就職ではなく、企業の技術や考え方に触れ、より将来像に近づけるような就職活動につながるよう工夫しました。説明会の参加対象者については全学年を対象とし、早期就職活動の意識付けや、在学中のアルバイト勤務を促進しました。

⑤ 日本語学科の充実

令和7年度より、クラス運営や授業にグーグルクラスルームを使用しICT化を進めました。進学先のオープンキャンパス及び入試情報を一斉配信し、進学への意識付けを行いました。また、時間割やカリキュラム、日々の注意事項から宿題まで、各クラスの運営に用いることで、隙間時間でも学校や授業についての情報を得ることができるようになり、学業に意識を向ける時間を増やせました。

授業においては、スマートフォンのアプリを使用したプレゼンテーション授業を実施し、進学を見据えた学びを提供しました。

⑥ 応用日本語学科の充実

日本語学科同様、クラス運営にグーグルクラスルームを使用しICT化を進めました。進学先のオープンキャンパス及び入試情報を一斉配信し、進学への意識付けを行いました。また、時間割やカリキュラム、連絡事項を送ることで、前年度までよりスムーズに学生に情報を伝えることができました。また、日本語学科と同じツールを使用することにより、情報の偏りがなく、進学等の情報の共有ができるようになりました。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学生募集活動については、中期計画で策定した法人本部における学生募集・広報業務の統括部門の設置には至っていないものの、入学者確保に向けた各種施策を実施しました。

高校訪問や高校ガイダンスへの参加を継続するとともに、オープンキャンパスやSNS等を活用した広報活動を強化し、志願者増加に努めました。

国家試験対策については、各学科において国家試験対策委員会を中心に、模擬試験や補講、個別指導等を継続的に実施しました。また、学生面談や学習状況の確認を通じて学修支援を行い、国家試験合格率の向上に努めた結果、柔道整復師国家試験およびはり師・きゅう師国家試験において全国平均以上の合格率を達成しました。

遠隔授業の活用については、東洋療法教員養成学科において令和7年4月より遠隔授業を開始し、オンデマンド授業および同時双方向授業を円滑に運用しました。

授業実施にあたっては、整備した機材や通信環境を活用し、学生の学修機会の確保と利便性向上を図るとともに、授業内容の確認や学修支援を継続的にを行い、教育の質の担保に努めました。

⑧ 施設設備の整備

令和7年10月14日にWindows10がサポート終了を迎えたことから、第1校舎2階PC教室に設置しているパソコン15台をWindows11搭載のパソコンへ入替を行いました。

また、東洋療法教員養成学科で遠隔授業の開始に伴い、備品及びインターネット回線の整備を行いました。

その他、定期的な校舎設備の見回りにおいて、発見された軽微な不良箇所については修繕を行いました。

⑨ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

全国柔整鍼灸協同組合は開業している柔道整復師及び鍼灸師が所属する団体であり、厚生労働省認可団体です。本校はこの全国柔整鍼灸協同組合が設立母体であり、開校以来、業界の後継者育成のために相互協力し、昨今の業界や教育現場における様々な問題を同組合と本校が情報共有してきました。

本校からは医科学的な情報提供を行っています。全国柔整鍼灸協同組合からは今年度も柔道整復師専科教員、はり師きゅう師教員を有する同組合理事による座学と実技を開講しました。

また、全日本大学トライアスロン選手権（観音寺大会）をはじめ、堺ユースサッカーフェスティバルやマラソン大会などの学外実習時における臨床技術の指導も受けています。

業界の動向や卒業生の独立開業等に関して、将来的に不利益にならないように職業教育科目等で学生に最先端の内容を教授頂きました。柔道整復師及びはり師きゅう師の養成施設指定規則で定められた、関連産業との連携として、同組合員施術所から臨床実習先として施設協力を頂きました。同組合の関連団体である公益社団法人全国柔整鍼灸協会とも連携し、学生にも同協会主催の各種講習会を案内しました。

同協会主催の超音波画像観察装置の講習会では本校を会場として、本校が有する複数台の装置を利用し、開講しました。症例検討会では平成医療学園グループの教員が症例を発表し、同組合員がオンラインで視聴参加しました。

(3) 横浜医療専門学校

① 入学者の確保

中期計画に則り、「広報戦略」を策定し、令和8年度の入学者目標を明確に定めた上で、広報活動を実施しました。

高校生募集については、神奈川県内を中心としながら長野県・静岡県を重点募集エリアに設定し、高等学校への訪問活動を継続的に実施することで、高等学校との信頼関係構築に努めました。また、業者主催および高等学校内で実施される進学ガイダンスへ積極的に参加し、高校生と直接接触する機会を増やすことで、他校との違いや本校の特色を明確に伝え、本校イベントへの動員強化へと繋げました。

社会人募集については、本校卒業生が開業・勤務している治療院や、就職相談会への参加実績がある接骨院・治療院への訪問を重点的に実施しました。各治療院との関係性強化を図るとともに、紹介による入学者確保を推進しました。特に、例年実施している「夜間学校説明会」に加え、附属治療院や教員と連携した「夜間施術体験会」を複数回実施したことで、職業理解を深めた上での受験へと繋げることができました。

オープンキャンパスでは、本校の特色を活かした実践的な体験型授業を中心に実施し、参加者が施術現場を具体的にイメージできる内容としました。また、学友会スタッフと参加者が十分にコミュニケーションを取れる時間を設けることで、満足度の高い学校説明会運営を行い、出願率向上を図りました。さらに、本校教員による授業だけでなく、現役トレーナーや治療院開業者である卒業生を講師として招くことで、多角的な学びの機会を提供し、イベント参加者のリピーター率向上にも繋げました。

ホームページおよびパンフレットについては、「YOKOHAMA」という地域性を活かし、明るく洗練されたイメージを前面に打ち出した広報展開を行いました。また、各媒体業者へ出稿する原稿についても、ホームページ・パンフレットと統一感のある写真やデザインを用いることで、高校生・社会人双方に受け入れられやすいブランドイメージの構築を推進しました。さらに、SNSを活用した情報発信を強化し、イベント告知に加えて、授業風景やイベント時の明るい雰囲気を写真・動画で発信することで、進学後のイメージ形成および進学への期待感向上を図りました。

② 教育の充実

本校では、「学生に自ら考えさせ、自ら判断させ、自ら決定させ、自ら行動させる、いわゆる「自律する力」を育成する」ことを教育目標として掲げ、教育活動を実施しました。

その取り組みの一環として、令和7年度は教員配置を「学生サポート部門」と「臨床教育部門」に分け、それぞれの役割を明確化しました。

「学生サポート部門」では、特に1年生に対する「初年次教育」に重点を置き、職業理解、コミュニケーションスキル、チームビルディング等を通じて、学生が主体的に考え、自ら行動できる力を育成する取り組みを行った。また、学生との面談や学習支援を積極的に実施し、学生フォロー体制の強化を図りました。

「臨床教育部門」では、附属施術所見学や柔道整復師・鍼灸師の施術見学等を早期より実施し、医療職としての職業理解を深めるとともに、職業の魅力を伝える教育を行った。実際の臨床現場に触れる機会を設けることで、学習意欲の向上につなげました。

これらの取り組みにより、課題であった1年生の退学率を改善することができた。今後も初年次教育および学生支援体制の充実を図り、学生一人ひとりの成長を支援していきます。

③ 国家試験対策の充実

柔道整復師科および鍼灸師科では、国家試験合格率向上を目的として、早期から計画的な国家試験対策を実施しました。

柔道整復師科では、「統合教育Ⅲ」の授業を活用し、各科目における国家試験対策を演習形式で実施しました。合同模試に加え、外部業者模試等も活用しながら定期的に効果測定を行い、学生自身が現在の学力を把握できる環境整備を行いました。また、成績が伸び悩んでいる学生に対しては積極的に個別面談を実施し、学習方法や学習習慣の改善指導を行いました。さらに、複数教員で3年生を担当する体制を構築することで、多面的かつきめ細かな学習支援を実施しました。

加えて、5月より解剖学、生理学、柔道整復理論を中心とした補習を実施し、得点源となる基礎科目および専門科目の強化を図りました。年末から国家試験直前にかけては、成績不良者に対し授業前後の補習を継続的にを行い、学力向上に努めました。

鍼灸師科では、4月より基礎科目である解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論の復習を徹底し、基礎学力の定着を図りました。また、第1回合同模試の結果を基に成績下位者に対する個別面談を実施し、学生自身に学習目標および学習計画を設定させ、主体的に学習へ取り組めるよう指導を行いました。

さらに、12月に実施される卒業試験に向け、合同模試結果等を参考に苦手科目や優先的に学習すべき分野を分析し、適宜学習計画の見直しを行いながら指導を継続しました。

両学科とも、夏季休暇以降は国家試験および合同模試の過去問題を活用した問題演習を継続的に実施しました。加えて、学力の伸び悩みや学習意欲の低下が見られる学生に対しては、その都度個別面談や補習を行い、学生一人ひとりの状況に応じた支援を実施しました。

これらの取り組みにより、学生一人ひとりに応じた国家試験対策および学習支援体制の充実を図ることができました。

④ 就職支援の充実

横浜医療専門学校就職支援の基本として、学生個々の特徴、性格をしっかりと把握して、教職員全員での共有事項として就職支援を実施いたしました。

就職相談会については令和7年度も大さん橋ホールで72社を招致して、全学年を対象に大規模に実施しました。様々な企業の説明を聞くことにより、1年生は治療院で働くことのイメージづくり、2年生は具体的に考えて、3年生は入社希望の治療院でのキャリアアップを考えてもらいました。

また、この就職相談会で企業の話聞き就職に至ったケースも多くとても有意義に感じます。令和7年度も就職活動の第一歩としてまずは自己分析、業界・企業研究、履歴書の書き方、対人コミュニケーションまで、基本的なことから実践的に指導をしてきました。また面接対策として経験豊富な教員が先頭に立ち、面接のポイントを着実につかんでもらいました。

求人票、企業説明会、セミナー、卒業生情報については、グーグルのクラスルームにて全員に即時配信。また企業案内については学生が自由に閲覧できるように校内に配置しています。

就職先拡大においては、管理職をはじめ、広報課、就職支援委員会が先頭に立ち治療院訪問をしました。以前よりつながりがある企業については、より強固な関係づくりの一助としています。

このように、様々な角度から学生にとってより良い医療人になるよう教職員全員で善処した結果、就職希望者についてはほぼ希望通りの就職ができました。

⑤ 日本語学科の充実

令和7年度の日本語学科は主務官庁より総定員変更の許可を受け、総定員60名から総定員80名へ変更となり、学生在籍数は79名となりました。留学生の募集については東京出入国在留管理局横浜市局より令和7年10月6日付「令和7年における教育機関の選定結果について（通知）」の中で「適正校（クラスⅠ）」として選定されました。これにより 在留資格認定証明書交付申請に必要な書類が大幅に簡素化されるため、募集活動における各国 エージェントに強力なアピール可能となりましたので、今後においても適正校（クラスⅠ）として選定されるように適切な在留管理を行います。

教育の充実については、学生の日本語能力向上および進路実現を目的として、 **JLPT・EJU** 対策授業、個別学習指導を実施し、学生の日本語能力向上に努めました。また、生活指導・出席管理・アルバイト状況把握等についても在留資格更新に直結する重要な項目と位置づけ、継続的に指導および管理を実施し、安心して学習できる教育環境整備に努めました。

学校外での生活において留学生がトラブルに巻き込まれることのないよう、新入生入学時は生活オリエンテーション、警察講習、消防講習を行い、日本語学科教職員は組織人として、情報共有と報連相を徹底し、留学生寮の定期訪問と生活指導に力を入れ、留学生と日々、コミュニケーションを取ることでトラブル防止に努めました。

また、令和6年4月1日に施行された「令和五年法律第四十一号日本語教育の適正かつ確実 15 年実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」に定める「日本語教育機関の認定」を受けるべく主任教員を中心に令和8年度は新カリキュラムの作成および、認定日本語教育機関の教員の資格である「登録日本語教員」の資格取得のサポートを行い、令和9年もしくは令和10年での認定を目指します。

⑥ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学園で策定された中期計画に基づき、令和6年度に「財務基礎の強化」「教育力の強化」「学生募集・広報の強化」「新規展開の検討と着手」「外交人留学生への対応のシステム化」「ガバナンスの強化」の5つの観点からそれぞれの現状把握と課題点のあぶり出しを行った結果、優先順位をつけ、改善に向けた着手を行っていましたが、令和7年度はその本格実施と検証を行いました。特に「教育力の強化」については医療専門課程の専任教員を「学生サポート部門（初年次教育や補習、国家試験対策）」「臨床教育部門（臨床力向上と職業理解）」に分け、担当と責任を明確にするとともに、カリキュラム変更を行い、座学を15コマ（30時間）から20コマ（40時間）に変更し、学習内容は変えずに4コマの授業ごとに小テストと振り返りの授業を行う形式を導入するなど教育の質の向上に努めた。またオンデマンドシステムの開発に取り組み、令和8年度より、オンラインによる授業の配信をスタートできる体制を整えました。

文化・教養課程については現在勤務する教員に登録日本語教員の資格取得を強く促し、すで

に一部の教員は資格を取得に至りました。

「学生募集・広報力の強化」については学園全体の広報研修を対面式で2回実施し、戦略、戦術の組み立て方から広報計画の策定方法につき、他校の取り組みを取り入れるなどした結果、医療専門課程においては昨年差10名増に至りました。

「外国人留学生への対応と学園全体のシステム化」については留学生の費用負担の軽減を図るとともに安定した入学者の確保を目的とし、ネパールの首都カトマンズを候補地として日本語学校の設置の検討を行った。また本校独自の取り組みとして宝塚医療大学観光学科へ進学した本校卒業生からキャンパスライフについてインタビューを行う機会を設け、本校を卒業した学生の送り込みを図りました。

⑦ 施設設備の整備

令和7年度事業計画書で計画した通り予算に基づき優先順位を考慮し、未実施であった地下1階電気室内に設置されている変圧器のPCB検査、及びコンデンサ・リアクトルの更新工事と、令和6年度に稟議申請の承認を得て工事発注を行い、交換用高圧ケーブルの納品に時間を要していた同電気室内の高圧ケーブルの更新工事を実施いたしました。

消防設備につきましては、令和7年9月に実施した消防設備点検で消火ポンプ給水管の漏水が見つかり、火災の際にスプリンクラーが作動しないことが判明したため、急遽その原因であるフート弁の交換工事を実施いたしました。

また、懸案事項である校舎屋上の防水や、外壁等の大規模修繕につきましては、予算状況を勘案し優先順位を付け、計画的な修繕及び改修工事を検討いたします。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

毎年度、全国柔整鍼灸協同組合に所属されている先生から現場の教育課程編成委員会にて、活発なご意見を賜りました。

柔道整復師科・鍼灸師科の外部実習の研修先として組合員の施術所でご協力いただきました。

大さん橋での開催された就職相談会に参加企業には組合員の先生方も参加されて在校生と活発な在校生と就職についてのコミュニケーションを活発させていただきました。

卒業予定者を対象に全国柔整鍼灸協同組合と連携し、業界事情の説明や臨床現場に入るにあたっての必要な心構えや準備について業団説明会を実施しました。

(4) なにわ歯科衛生専門学校

① 入学者の確保

令和7年度は大阪・兵庫など本校の主な在校生実績高校への訪問に加え、高校1・2年生対象の高校内ガイダンス参加を増やしました。オープンキャンパスでは、学校の雰囲気がわかる体験実習や在校生との交流、個別に対話する機会を持つことにより、参加者の満足度を高めることを重視しました。主な対象が高校生であることから、募集活動でのアプローチ（高校内ガイダンス・高校訪問）やSNS（LINE・X・Instagram・TikTok）により、スマートフォンやパソコンを活用した情報発信にも注力しました。AO入試を中心に入学生の早期確保を目標に準備を進めていましたが、養成校の増加に伴い、令和7年度入学生の競争倍率は、昼間部1.0倍、夜間部1.0倍となりました。昼間部は入学定員72名に対し志願者80名、夜間部は36名に対し志願者46名となり、最終的に昼間部79名（充足率109.7%）、夜間部41名（充足率113.8%）が入学しました。

② 教育の充実

従来のカリキュラムのほか、感染症の影響により、実施を見送っていたアメリカのウェストロサンゼルスカレッジでの海外研修を実施しました。実技科目については昼間部・夜間部とも

綿密な指導を行い、特に臨床実習前や卒業前の実技試験に力を入れて取り組みました。さらに、歯科衛生士として高齢者や障がい者との接点も多いことから、福祉関係にも積極的に携わるようにし、医療法人美和会平成野田クリニックを実習先として充実を図りました。例年に倣って介護職員初任者研修や歯科医療事務講座・パソコン講座の講義を開講し、エイジレスセンターでの研修も行いました。2年次から3年次にわたり、外部実習授業である病院や歯科医院での臨床実習をおおよそ8ヵ月実施し、知識と共に技術や学内では学ぶ事が難しい様々な年齢や疾患の方々から多くを得ることができました。入学後のオリエンテーションや昼間部夜間部合同での交流会を実施し職業意識の向上にもつながりました。

③ 国家試験対策の充実

国家試験対策については、校内及び外部の模擬試験を昼間部11回、夜間部12回実施し、校内模試の見直しによる経費削減を行い、例年に倣い国家試験対策用のカリキュラム（総復習講義、国試対策補講）や外部の国家試験対策講座（夏季と国家試験前）も行うとともに、国家試験対策に特化した講義を取り入れ、指導に反映しています。国家試験の出題基準に併せ、専任教員間で検討会議を行い、教員の指導力向上と学生指導にもつながる専任教員研修会や各種学会・研修会に参加しました。指導力の向上にも努めました。また、各担当が学生と接する時間を多く取り、精神面のケアや相談、学習のフォローを行うことにも努め、過去の国家試験問題などを閲覧できるアプリも活用しました。令和7年度の国家試験結果は、受験者109名中合格者97名で合格率は89.0%となり、前回の令和6年度(87.8%)を上回り、受験者全体の全国平均(94.5%)を下回りました。不合格者には、国家試験対策講座の聴講や模擬試験の実施などにより合格に向けた対策を行うこととしています。

④ 就職支援の充実

昼間部の学生は例年11月頃には就職希望先を決め、順次採用試験に向かうことから、そのための指導や相談を綿密に行いました。夜間部の学生は11月まで臨床実習があるため、それ以降に就職指導を行いました。卒業後の就職状況については、卒業生109名に対して求人件数は9倍以上となり、就職希望者はほぼ採用が決定しました。就職先は主に一般の歯科診療所です。病院希望者については、大阪大学附属病院をはじめ知名度の高い有名病院の紹介を優先的に行っています。就職時期が卒業式後に決定する学生が多くなっていることから、今後も就職希望者全員が就職できるよう、学生一人ひとりに対するきめ細かい進路指導を行っていきます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和7年度の財政基盤の強化、学生募集・広報の強化については、広報職員の人事異動に伴い、高校訪問が不十分で懸念されましたが、本年度定員充足の結果となりました。教育力の強化については、卒業率と国家試験合格率の向上を図るため、学力低下の学生に焦点を当てた早期学力対策に着手しました。模擬試験で学力を正確に把握し、基礎学力の底上げを行いました。さらに保護者を交えた学生面談を実施し、家庭と学校の連携強化を行い本人の学習意欲維持へ協力を求めました。また、令和7年11月27日に開催された「学校法人平成医療学園グループ校中長期計画対策会議」に参加し、卒業率90%以上達成について意見交換した。今後の中期計画については、自己点検・評価を通して適宜修正を行い、運営会議などで本校の現在の課題を分析し、具体的な学校運営の目標を検討します。

⑥ 施設設備の整備

令和7年度については、臨地実習で使用するスピーカーを購入し、ネットワーク機器のFortiGateの入替を行いました。現状で問題が見られる個所について、点検した上で順次整備する予定としています。

(5) 名古屋平成看護医療専門学校

① 入学者の確保

令和7年度の学校全体の入学状況は、入学総定員165名に対し137名が入学し、入学定員充足率は83.0%でした。これは昨年度比4名増となり、改善傾向が見られました。

令和7年度も「学生募集委員会」を中心に、広報事務と学科教員が一体となって学生募集活動を展開しました。学科別に目標を設定し募集活動を進めた結果、昨年度大きく定員を下回った看護学科では入学者数が8名増加し、入学定員充足率も105%まで回復しました。また、アスレティックトレーナー学科においても4名増となり、学校全体では137名を確保し、定員充足率は83.0%、昨対比103%と改善しました。一方、理学療法学科は定員充足率が60%に留まる結果となりました。今後は学科の強みや特色を見直すとともに、教育内容をプログラム化し、より分かりやすく発信する施策を実施することで、次年度の巻き返しを図ります。

令和7年度の主な施策としては、早期からオープンキャンパスや各種イベントを積極的に実施しました。卒業生を招いた企画に加え、「夏祭り」「クリスマス」「HEISEIフェス」などの大型イベントにも取り組みました。また、リピーター獲得にも注力し、「リピーター企画」を継続して実施したことで、リピーター率および出願率の向上につなげることができました。さらに、学生スタッフの育成にも力を入れ、オープンキャンパスでは学生スタッフリーダーを中心に、学生がより多岐にわたり運営に関わる体制を構築しました。その結果、参加した保護者からも高い評価を得ることができました。SNSやブログについても、教員の協力を得ながら積極的な情報発信を行いました。

高等学校への出張講座も年々増加しており、部活動顧問へのアプローチも実施しました。進学ガイダンスについては、低学年向けガイダンスから積極的に参加したことで、ガイダンス経由での来校者増加にもつながっています。高校訪問では、石川県をはじめ、福井県・富山県、さらに長野県についても在校生の出身校を中心に訪問しました。一方で、高校訪問全体については人員不足の影響もあり、当初計画どおりに実施できなかった点が課題として残りました。そのため、令和8年度は計画的かつ継続的な高校訪問体制の構築に注力していきます。

令和8年度は、学校パンフレットを刷新するとともに、高校訪問の強化、5学科合同イベントの実施、SNS・ブログ・動画配信のさらなる充実を図り、来校者数の増加につなげることで、定員165名の充足を目指します。

② 教育の充実

令和2年度より、教育理念に掲げている「徳義の涵養」を実践する教育として、「感謝」(学修環境や健康に感謝する心を学ぶ)、「自他共栄」(人間関係の重要性を学ぶ)、「自律」(自ら学ぶ心を修得)を軸としたCM教育(cultivate morality)を各学科の教育内容に導入しています。平成医療学園グループで実施している海外研修については台湾研修(中医学)及びベトナム研修を実施することができました。台湾研修は学生3名と卒業生1名、1名の教員、ベトナム研修は8名の学生と1名の教員で参加しました。海外やグループ校の学生・教員の交流を持つことができ広い視野と多様化に対応できる教育ができました。CM教育を通して、職場で必要とされる専門知識や技術、実践的なスキルを学ぶ授業を実施するとともに、学校行事をはじめ地域貢献やボランティア活動等により仕事のマナーやチームワークスキルを学生スタッフとして身につけることができる機会を提供しました。令和6年度に関しては、スポーツ大会などの学校行事や、認知症カフェやマラソン大会へのサポートなどの地域貢献やボランティア活動について学科間交流の機会としても実施しました。また、オープンキャンパスに参加している学生スタッフを対象としたマナー講座に加え、全学科を対象としたキャリアガイダンスにおいても、各学科の進路選択状況に合わせたマナー講座及び面接対策講座を実施することで、さらなる成長に向けた取り組みを始めました。

看護学科では認知症カフェの運営を学生が主体的に行い、地域に根ざしているのはもちろんのこと、学生自身も高齢者の日ごろの生活の様子を聞くことができました。他にも地域包括支援センターや看護協会から運営スタッフとしてボランティアの要請を受けて参加することにより経年的な継続性を持たせています。

理学療法学科では異学年交流活動やげんきカフェに参加することで、コミュニケーション能力の向上を図り、発表会・報告会やアクティブラーニングを積極的に取り入れて、プレゼンテーションや説明能力を養うことを取り組みました。

柔道整復学科では、学習環境の充実ならびに進路選定のきっかけ作りの為にも、多岐に渡る実習地の確保を行いました。令和7年度は、医科を6施設、接骨院を18施設、介護施設を6施設、合計30施設まで実習地を拡大することが出来ました。今後も、学生ニーズに応えられるよう実習地確保に取り組んでいきます。また、2年次で受験可能なJATI - ATI資格取得に向けて、補講などの学習サポートを行い全国平均合格率が64.3%のところ本学科は11名が合格し、91.6%に上げることが出来ました。柔道整復師としての基礎的医療知識だけでなく、スポーツやトレーニングに関する学習支援も含め、学習を継続的に実施する指導ができました。

はり・きゅう学科では、スポーツ鍼灸や美容鍼灸の専門性を高めるために資格取得に向けた取組を実施しました。具体的には、一般社団法人日本スポーツ医学検定機構が実施しているスポーツ医学検定2級とAEAJ認定アロマセラピー検定1級を授業内に組み込み、受験・資格取得を目指しました。スポーツ医学検定は31名が受験し18名が合格（合格率58.1%）、AEAJ認定アロマセラピー検定1級は26名が受験し25名が合格（96.1%）でした。外部臨床実習では、前期・後期での2回実施とすることで、課題設定と解決の機会を設けることができました。

アスレティックトレーナー学科では、それぞれの専門領域でご活躍のスポーツドクターをはじめ、日本代表チーム、プロ・実業団チームなどで現役として活動中、または活動経験のあるトレーナーや、各分野でのスペシャリストを講師としてむかえ、アスレティックトレーナーとして現場で必要とされる知識とスキルの習得を目指します。また、多種多様なスポーツ現場での実習を通じ、現場における実践力を高め、知識とスキルのみではなく、アスレティックトレーナーとしての『人間力』の育成と向上を図ります。また、令和2年度よりアスレティックトレーナー学科（2年制）として日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの養成を行ってきましたが、日本スポーツ協会トレーナー養成カリキュラムの改変に伴い、本学科においても令和8年度より新カリキュラム移行ならびに、履修年度の3年制への変更を行います。履修年度の増加により、さらに高度化するスポーツ現場で必要とされる人間性と実践力の研鑽に努め、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定資格取得を主な学修目標としていきます。加えて、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定資格以外に、スポーツ指導者資格の取得、医療系学科との併修並びに内部進学にも力を入れ、令和7年度卒業生15名においては、JATI（トレーニング指導者協会）認定トレーナー資格取得者が6名（40%）、併修生としての在学生在が2名（13%）、アスレティックトレーナー学科卒業後の新たな内部進学者が2名（はり・きゅう学科2名・13%）となっています。また、その他のスポーツ指導者資格として、NESTA-PFT、NSCA-CPTなどの資格取得も可能としています。

③ 国家試験対策の充実

令和7年度の本校における新卒者の国家試験受験状況は以下のとおりです。看護学科では34名中26名が合格し、合格率は76.5%でした。理学療法学科では20名中16名が合格し、合格率は80.0%でした。柔道整復学科では16名中15名が合格し、合格率は93.8%でした。はり・きゅう学科については、37名がはり師・きゅう師の国家試験を受験し、はり師は35名が合格（合格率94.6%）、きゅう師は35名が合格（合格率95.8%）となりました。全国平均と比較すると、柔道整復学科（全国平均90.3%）、はり師（全国平均83.4%）・きゅう師（全国平均85.9%）については、いずれも本校の合格率が全国平均を上回る成績でした。一方、看護学科（全国平均94.1%）、

理学療法学科（全国平均94.9%）については、全国平均に届かない結果となり、今後の教育内容のさらなる充実と国家試験対策の強化が求められます。

看護学科では、模擬試験等の学力低迷者に対し個別指導を繰り返し実施しました。学力低迷者については再履修や再実習をとっている学生がほとんどであり、単位習得と国家試験対策を並行することが困難である場合も見受けられました。国家試験不合格者に対しては、国家試験成果レポートで模擬試験を中心に対策を実施しました。また、滑り止めとして准看護師国家試験を受験、ほとんどの学生が合格することができました。

理学療法学科では、国家試験で重要視される基礎医学科目（解剖学、生理学、運動学）について、演習科目を設定するなど低学年次より徹底して学習強化を図りました。4年生の実習前までに、基礎医学科目の振り返りを徹底し、期首開講オリエンテーションでは、全学年を対象に基礎医学科目について共通実力確認テストを実施することで、各学生が学習の理解度を把握でき、テスト後は各個人での見直しのほか、グループワークでの復習を実施しました。卒業年次には国家試験までに4,000～4,500問の模擬試験を実施し、グループワークで理解を深めるとともに、理学療法特論Ⅰ・Ⅱでは専門分野別の問題解説や問題作成にアクティブラーニングを取り入れ、アウトプットの機会を増やすこと、さらにグループに対して各教員を配置することで、質問を受け付けやすくすることで、知識の定着のスピードを上げることを実施しました。

柔道整復学科では、3年次には4回の合同模試、3回の校内模試、1回の学校協会模試、2回の業者模試の計10回を実施しました。模擬試験の成績を基に、学生個々の弱点などを抽出し学生指導に活かしました。9月に実施した模試に基準点を設定し、基準をクリアできなかった学生については個別指導や居残り学習の時間や場所を提供しました。また、1.2年次より国家試験に向けての意識付けを行う為にも年度末には実力試験を実施し、1年間の習熟度を把握するとともに、次年度の課題を学生、担任で共通理解することに努めました。

はり・きゅう学科については、統合教育科目を中心に実施している国家試験対策に加え、国家試験対策講座やフォローアップ講座を設けて個別指導を実施、授業以外での対策講座を実施することで、新卒者における国家試験合格率に関し、はり師・きゅう師ともに全国平均を上回る結果を残すことができました。

アスレティックトレーナー学科では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定資格の取得を最大の目標としています。理論試験対策として、過去12年分の問題をベースに作成した校内模試並びに他学との連携による合同模試を実施し、そこで得られた結果を分析し、学生個々への合格に向けた指導につなげていきます。くわえて、令和7年度より理論試験の受験形式がCBT形式に変更になったことから、学内模試においても本試験同様の形式を取り入れました。また、理論試験合格後の実技試験対策として、専任教員と非常勤講師の指導に加えて、近年の実技試験合格者によるサポートを受けるとともに、他学との協力運営のもと、合同実技試験対策を実施し、在学期間2年でのAT資格取得を目指します。令和7年度のAT試験では、理論試験においては在学生11名（15名受験）、既卒者5名（11名受験）が合格（合格率62%；現役生73%・既卒者45%）し、実技試験においては既卒者3名（4名受験）が合格（合格率75%）しています。また、関連スポーツ指導者資格として、JATI（トレーニング指導者協会）認定トレーナー資格試験において在学生6名（8名受験）が合格（合格率75%）しています。

今後に向けては、各学科での取り組みに関し全学科で共有することにより、さらなる国家試験対策の改善につなげていきます。

④ 就職支援の充実

令和7年度については、看護学科34名、理学療法学科20名、柔道整復学科16名、はり・きゅう学科37名、アスレティックトレーナー学科15名の計122名の卒業生となり、令和6年度の卒業生が105名であったことから17名の増加となりました。

このような状況のもと、国家資格キャリアコンサルタントを取得したキャリアアドバイザーによ

るキャリアガイダンスを実施するとともに、各学生の経験・強みを整理するための自己分析ワークシート作成、外部機関による自己理解セミナーを実施しました。また、就職活動の早期化に向けて、卒業年次生以外のキャリアガイダンス導入も始めています。結果、令和7年度における「就職希望者に対する就職率」は99.1%、「就職希望者に対する関連分野への就職率」は94.7%となりました。

看護学科では、年々、採用試験が早くなる傾向となっており、低学年のうちから順をおってセミナー等を開催しています。特に2年生の春休みには、キャリアアドバイザーと連携をとり履歴書の書き方や面談の練習をして採用試験を受けています。結果、34名の就職希望者全員が関連分野に就職、ほとんどの学生が第1希望の病院で内定をしています。

理学療法学科では、学生一人ひとりのキャリアデザインが広がるように学生の特性や希望、居住地域などから、臨床実習地の配置を学科会議で協議します。また、臨床実習以外にもCM教育の一環で、ボランティア活動の参加を促し、理学療法士の職域理解を深めました。本格的な就職活動は4年次から始まり、求人票などの就職情報で興味のある施設に対しては、積極的に施設見学をするよう指導するとともに、キャリアアドバイザーによるキャリア面談を活用して、応募書類作成から面接対策まで手厚くサポートすることで就職試験対策を徹底しました。結果、19名の就職希望者に対し16名が関連分野に就職しました。

柔道整復学科では、柔道整復学科では、15名の就職希望者全員が関連分野に就職することができました。就職活動早期化に向けて2年生後期からキャリアガイダンスを実施し、就職に向けての意欲向上を図りました。3年生では、4月と7月に合同企業説明会を開催するとともに、キャリアアドバイザーと連携を取りながら個別面談を実施し、早期内定を得る事で国家試験に向けての学習意欲向上に繋げることができました。

はり・きゅう学科では、6月に履歴書の書き方や企業訪問の仕方、求人票の見方などについてキャリアガイダンスの中でレクチャーを実施するとともに、6月には合同企業説明会、11月に業界組織説明会を開催することで、就職に向けての意欲と知識を身につけることができるよう対応しました。結果、35名の就職希望者に対し33名が関連分野に就職することができました。

アスレティックトレーナー学科では、県内外を問わず全国から企業を招き、スポーツ・健康・医療業界と幅広い分野の説明会を実施するとともに、学内キャリアアドバイザーと連携し、応募書類作成から面接対策までの個別指導を行います。また、公募に上がらないスポーツチーム（プロチーム、実業団チーム）からの求人情報についても、様々なスポーツ現場で活躍中、または活躍された卒業生や講師などの人的ネットワークが充実していることから、学生個々の就職希望先を反映したサポートを行っています。結果、10名の就職希望者に対して9名が関連分野に就職、内訳はスポーツクリニック1名、施術所付帯トレーニング施設3名、クリニック（心臓内科看護師）1名、スポーツ指導3名、スポーツアパレル1名の就職実績となっています。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和7年度は、「人間性」「ホスピタリティー」「実践力」を兼ね備えた人材育成を目指し、教育理念およびCM教育方針に基づいて教育の質の向上に取り組みました。特に、学友会と連携した勉強会の実施により、在校生・卒業生双方の学びの継続に向けた支援の機会となりました。

当初計画していた「留学生別科」については、実現の見通しや運営体制を慎重に検討した結果、設置を断念する判断に至りました。一方で「日本語能力を取得した留学生対象の専門課程（国際ビジネス学科：仮称）」設立に向けたプロジェクトチーム発足の準備をするとともに、今後は同学科設立に向けた計画・基本方針の作成に取り組む予定です。なお、大学化の検討については、候補地として小学校跡地の調査を行いました。行政の意向から同跡地活用に関する決定は困難となったため、一時保留としました。

また、令和8年度アスレティックトレーナー学科入学生より、現在の2年度制から3年度制への変更に伴い教育内容の再構築を行いました。従来のアスレティックトレーナー専門カリキュラ

ムの履修にくわえて、さらに教育を充実させ、他競合校との差別化を図るとともに、現代社会が求めるアスレティックトレーナーの育成を推進していきます。

【教育活動に関する基本方針】

1. 全教職員の総合力による学生募集・定員確保の達成
2. 教育サービスの提供の向上と徹底
3. 地域連携の模索
4. マネジメント体制の強化
5. 情報資源の有効活用
6. 教育サービス事業の優位性の確立
7. 人事制度の適正な運用
8. 新規事業への構想

⑥ 施設設備の整備

令和7年度については、大規模修繕工事を行わず、小規模修繕にとどまりました。

校舎老朽化に伴って、空調や治療院ボイラーなどの故障箇所が増えましたが、本年度は故障箇所の状況を確認するにとどめ、令和8年度に修理を進めていく予定です。

引き続き校舎内階段灯、教室引戸など破損・故障する設備が増えており、予算状況をふまえ、優先順位をつけたうえで修理を進めていきます。

また令和6年12月に学校法人河合塾学園が所有していた校舎（旧ドルトンスクール）を購入し、「名古屋平成看護医療専門学校 千種校舎」としました。千種校舎は、旧ドルトンスクールにおいて就学前の児童が使用していたため、教室の広さ、ホワイトボードの高さなど現状では成人の学生が使用することは不便な状況となっています。令和7年度は空調や内外装の状況調査を行い、令和8年度に空調の修理や内装の修理を行う準備をしております。令和8年度中に施設として使用できる状況にします。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

令和7年度の活動としては、8月初旬に実施した学外実習「蒲郡温泉郷ユースサッカーフェスティバル」と12月下旬に実施した学外実習「選抜刈谷サッカー大会」には医療ボランティアとして4名の組合員に参加して頂き、学生に対して教科書では学べない実践的な知識や技術を教えて頂きました。

(6) 日本総合医療専門学校

① 入学者の確保

令和8年度入学者数は、柔道整復学科26名、鍼灸学科11名、合計37名となり、入学定員60名に対する入学定員充足率は61.7%でした。前年度と比較すると入学者数は増加しており、募集活動の取組については一定の改善傾向が見られる結果となりました。学科別では、柔道整復学科において入学定員の一定割合を確保することができた一方、鍼灸学科については引き続き志願者確保が課題となっています。令和7年度においては、オープンキャンパスの分散開催や個別相談の充実、学科の特色や資格取得後の進路に関する情報発信に取り組んだ結果、入学者数の回復傾向は認められたものの、定員充足には至りませんでした。

② 教育の充実

伝統医学の継承と発展を担う人材育成を目的として、ゼミナールの開講や解剖実習見学を実施し、専門分野に対する理解を深める教育活動を行いました。また、学習面に加え、生活面や進路面に関する個別相談を通じて、学生一人ひとりに寄り添った支援に取り組みました。一方

で、学生の学習状況や理解度には差が見られ、教育内容および支援体制については、さらなる工夫が必要と考えます。

③ 国家試験対策の充実

国家試験対策として、模擬試験の実施や結果分析に基づく補習指導を行い、学生の到達度に応じた支援を実施しました。その結果、令和7年度新規卒業者における国家試験合格率は、柔道整復師国家試験95.8%、はり師国家試験62.5%、きゅう師国家試験87.5%となり、全国平均と比較して概ね良好な結果となりました。全員卒業および国家試験合格という目標は未達ではあるが、改善傾向にあります。

④ 就職支援の充実

就職支援については、教職員が学校一丸となって進路指導および個別支援に取り組み、学生一人ひとりの希望や適性に応じた支援を行いました。その結果、令和7年度卒業者32名の全員が就職又は進学しており、卒業生全員が希望する進路に進んでいる。進路面において良好な成果が得られています。事業計画通り、キャリア教育、企業連携、説明会などが実施された結果と言えます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

中期計画および事業計画に基づく取組については、入学者数の確保において計画どおりの達成には至っていないものの、教育および進路実績については概ね計画水準を維持しています。一方、学生募集面では、東東京地域における柔道整復・鍼灸養成校の多さによる競争激化に加え、本校が主な募集対象とする常磐線沿線地域において18歳人口の減少が進んでおり、志願者母数の縮小という構造的課題を抱えています。また、物価高騰や競争激化に伴う広報コストの増加といった制約の下で募集活動を行わざるを得ず、事業計画の達成に一定の影響が生じています。

⑥ 施設設備の整備

事業計画に基づき、養成施設設置基準および専修学校設置基準等の関係法令を踏まえ、施設設備の状況確認および一部対応を行いました。LED照明への切替については、地球温暖化対策および光熱費削減の観点から必要性を認識しているものの、令和7年度中において全面的な更新の実施には至っていません。既存照明については状況確認および限定的な対応にとどまっています。また、非常灯、空調設備、自動ドア等の安全確保に直結する設備についても、事業計画において対応が求められているが、年度内における抜本的な整備・更新は実施できていません。一方で、設備の状況確認や応急的・部分的な対応を行い、教育活動に重大な支障が生じないよう配慮しました。これらの結果、安全設備を含む施設設備全般について、事業計画に対する対応が十分ではない項目が残っています。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

全国柔整鍼灸協同組合との連携関係を継続し、業界動向や実務に関する情報提供を受ける機会を設けました。関係者評価委員会等を通じて外部の視点から助言を得るとともに、在校生に対する業界説明の機会を通じて、職業理解の促進に努めました。今後も引き続き、教育内容の充実および業界との連携強化に向けた取組が必要です。

(7) 福島医療専門学校

① 入学者の確保

事業計画を基に戦略を協議し、令和7年度は「WEB広告を活用し高校新卒入学者を8割獲得

する」を掲げ、柔整科、鍼灸科、歯科衛生士の定員170名充足とイベント来校者数360名、来校からの出願率50%以上を目標に募集活動を行いました。最終的な入学者数は、柔整科41名、鍼灸科21名、歯科衛生士50名の計112名であり、昨年度の122名を下回る結果となりました。イベント来校者は延べ392名（実人数288名）で実人数は昨年度とほぼ同数でしたが、高校3年生においては来校者の減少が見られました。獲得率全体は目標の50%を上回りました。しかしながら、鍼灸科の高校生、歯科衛生士の社会人は35%程度であり、目標を下回っていた部分もありました。

この結果の大きな要因は、柔整科・鍼灸科が前年度より大きく落ち込んだためと考えています。昨今の18歳人口の減少による影響もあり、両学科とも高校生の獲得数が減少しました。治療院や卒業生紹介は増加したものの、イベント参加後に他校へ進学した者もあり、結果的に高校生目線でのイベント企画・運営に乏しかったと感じています。さらに柔整科では社会人入学者が、鍼灸科では再入学者数が減少したことも要因の一つと考えられます。歯科衛生士においては、来校者数は減少するも高校新卒入学者を前年度より多く獲得することができました。他学科と異なり、WEB広告、イベント運営を含めて高校生向けの募集活動で一定の成果が見られた結果と言えます。しかしながら、いずれの学科も前年度より入学者数が減少しています。令和6年度の反省から強化した部分は改善が見られていましたので、令和7年度で見た課題をいかに克服し、次年度の募集に生かすかが定員充足に向けた鍵と考えます。

令和6年度に日本語学科に入学した留学生は4月生が32名、10月生が5名です。在校生と合わせて87名（定員90名）での運営となりました。定員充足率も高く基準を満たしていたことから、仙台出入国在留管理局より次年度から定員135名への増員が認められました。令和7年度10月生の在留資格認定証明書交付申請より増員した定員で学生募集を行います。入学者を国別で見ますと、ネパール、バングラディシュからの入学者が安定して多く、堅調です。令和6年度はミャンマー、スリランカからも問題なく新規受け入れができました。各国の送り出し機関も紹介に積極的で、良い関係性を築けています。

日本語学科では、令和7年度より収容定員を90名から135名へと変更しました。4月生の受入申請は認可前であったため、増員後の本格的な受入れは10月生から開始されました。適正校（クラスⅠ）の認定が継続していたこともあり、10月生として申請した38名全員が在留資格を認定され、その後の辞退者を除き最終的に34名が入学しました。令和7年度の受入れはネパール、ミャンマー、バングラディシュの学生が中心となり、計画していたタイでの募集活動は実施できなかったものの、主要国からの応募は安定していました。各国の送り出し機関とは良好な関係を維持できており、この関係性を基盤として多国籍化を促進し、より質の高い学生を受け入れられるよう、今後も好循環の維持に努めます。

② 教育の充実

柔整科では重点教育目標である「体感・体験させる教育」の実践を軸に基礎系・臨床系科目における実体験型教育を推進し運動器のプロフェッショナル育成を目的とした教育体制の充実を図りました。1学年では福島県立医科大学講師による専門医学教育を実施し解剖学を中心とした基礎医学知識の定着を図りました。専門性の高い講義を通じ学生の学習意欲向上と医学的理解に繋がりました。2学年では福島県立医科大学における解剖見学実習を実施し座学で学んだ知識を実際の人体構造と結び付けることでより実践的かつ立体的な理解を深めることができました。さらに3学年ではフィリピン・デ・ラサール大学医学部において現地医師の指導による解剖実習を行い運動器系への理解をさらに強化するとともに骨折・脱臼整復固定に繋がる学習機会を提供しました。また柔道整復師として求められる現場対応力向上を目的としてスキー場実習等における救護活動支援を実施しました。学生は実際の救護現場に参加することで臨床現場に必要な判断力・対応力・コミュニケーション能力を養うことができました。加えて校外臨床実習を通じて柔道整復業務における実践的技術と現場力の強化を図りました。学習支援

においてはICTを積極的に活用し学習資料や課題の配信を随時行うことで学生個々の学習状況や生活環境に応じた柔軟な学習支援を実施しました。これにより学習機会の確保と時間の有効活用が促進され自主学習習慣の定着にも繋がりました。また、本校の特色教育である超音波観察法教育では超音波画像観察装置を多数整備したことで学生一人当たりの実技時間を大幅に確保することができました。その結果、観察技術の向上に加え評価能力の向上にも成果が見られました。FaST教育では筋膜リリースの概念および評価、治療という系統立てた教育により臨床現場で必要とされる触診能力や評価力、施術技術の向上を図った。実践的教育、ICT活用、医療機器教育を効果的に組み合わせることで学生教育のさらなる充実と柔道整復師として必要な知識・技能・人間性の育成を図ることができ、今後もより高度な医療人材育成に努めていきます。

鍼灸科では、主に「学生自身が考え実践し、その結果を修正できること」を目標に取り組みました。3年次の臨床実習では3年生が下級生に対して治療院での受付から問診、治療を行うことを実践し、学生自身が一連の治療を行うことを目標に取り組みました。さらに3年次の臨床研修では、台湾の中国医薬大学への研修も第3回を実施できました。今年度は対象学生数が少ないため、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった卒業生へ案内を呼びかけ5名の参加がありました。実際に中医師に触れることを通して鍼灸師への理解を深めることができました。2年次では、基礎から応用への学習が中心となり、臨床実習では外部実習を取り入れたスポーツ現場での関わり方を体験しました。J3の福島ユナイテッドFCのトップチーム公式戦やユースチームの練習で救護トレーナーに関わる実習およびその他スポーツ大会などでの活動を行いました。また、治療院の見学実習では3年次の治療をするための基礎的な手技の確認や診察に関わる技術の確認を中心に実施しました。さらに、付属施設の介護での実習も事前学習から実施までを計画して行いました。1年次では、オリエンテーションや新入生研修会などを通して、学生と教職員間、学生同士によるコミュニケーション促進を図りました。全学年を通してグループワークをすすめ、学生同士で協力して学習をすること、お互いの意見を尊重することなどを目標に実施しました。近年学生の就職活動の前倒し傾向が顕著の為、1・2年次からキャリアに関わる取組を実施しました。

歯科衛生士科では、3年間の教育課程において、各学年の発達段階に応じた教育手法を導入・実践しました。教育は入学前の事前課題から始まり、入学直後にはワークショップを通じて「学習方法」を早期に指導しました。日々の授業では常にフィードバックを意識した指導を徹底しました。近年見られる「職業意識の希薄さ（低下）」が学生のモチベーションを左右することから、キャリア教育の一環として学外講師による講義、セミナー、実習を積極的に取り入れました。教科書だけでは学べない歯科衛生士という職業の魅力や資格の重要性について、1年次から3年次まで継続して指導した結果、学生の職業意識の向上に繋がったと考えます。また、重点教育目標に掲げる「体感・体験させる教育」を継続的に実践するとともに、教員の指導力向上を目指し、各種研修会や学会へ積極的に参加した。そこで得た知見を日々の学生指導へ還元し、教育の質の向上を図ることができました。

日本語学科では学生の増員に伴い、まず学則の見直しとその徹底を行い、お互いがルールを守って安全に気持ちよく学習できる環境づくりを行いました。また学習内容に関しても到達目標に向けてのコースを再編成し、レベルごとにゴールに向けたカリキュラムを作成、評価についても検討しながら運営をしてきました。学生たちが卒業後のキャリアを考える時間を設け、担任との個別面談などを通してきめ細やかな進路指導を行い、さらに文化体験を含めた行事や地域社会とのつながりの機会を設け、将来にわたって日本での生活ができるような取組を行いました。さまざまな問題を抱えながらも学生がいきいきと、楽しく勉強に励む姿が日々見られ、結果JLPT N3の合格率も前年比158%となりました。令和7年度は、進学についても希望者はみな進学できましたが、留学生の増加に伴い入試時期や締め切りが早くなっています。令和8年度はより戦略的な取組が必要になると考え、すでに動き始めています。

③ 国家試験対策の充実

柔整科では国家試験合格率向上および学力保障を重要課題として位置付け入学前から卒業時まで一貫した学習支援体制を構築し継続的な国家試験対策の充実を図りました。入学者に対して入学前課題の提供と入学後の課題確認テストおよび国語力テストを実施し学生個々の基礎学力を早期に把握し、学習支援が必要な学生への早期介入を行うことで基礎学力の定着を図りました。1学年では学習習慣の確立を重点目標とし教員間で学習支援方針を共有しながら宿題やHR課題を継続的に実施。2学年では1学年で培った学習習慣の維持・発展を目標とし基礎医学系科目の確認学習や四択問題を活用した正誤訓練を実施しました。国家試験を見据えた問題演習を段階的に取り入れることで知識の定着と問題解決能力の向上を図りました。学生が主体的かつ継続的に学習へ取り組める環境作りを進めることで原級留置者0名を達成し、安定した学習継続に繋げることができました。3学年では国家試験対策を最重点事項として位置付け、年間10回の模擬試験を実施しました。結果を成績分析担当教員が中心となり学生一人ひとりの学力状況や弱点分野を詳細に分析し、科内教員と連携しながら個別指導を行いました。また、全4期の国家試験対策セミナーでは、実施科目・時間・講義内容を教員間で継続的に分析検討し、学生の理解度や進捗状況に応じた効果的な指導体制を整備しました。さらに、学習意欲の低下・生活面での不安などを抱える学生に対して、学科連携を重視し保護者・学生・教員による三者面談を適宜実施することで学生の状況把握と情報共有を密に行うことができ、早期の課題発見と改善支援につなげました。学年担任固定制の導入により、各学年の特性や学生個々の状況を継続的に把握できる体制を構築し、成績分析担当教員による学力向上計画と連動しながら学習支援を行った結果、国家試験合格率97.0%を達成することができました。高い合格率の維持に加え、1・2年次の留年者0名という成果にもつながり継続的な学習支援体制の有効性が実ったと考えます。

鍼灸科は、国家試験の全員合格を目指しましたが、はり師1名・きゅう師1名が合格に至りませんでした。3年次には、グループ校との合同模擬試験4回に加えて、校内模擬試験6回を実施し、国家試験対策を学生と担当教員が共同で実施しました。国家試験対策セミナーも継続して開講しました。模試の成績に応じて個別面談などを実施し、対応していました。また、全員に対して、授業・セミナー以外の対策問題を促し学力アップに努めました。2年次は学生が苦戦しやすい科目の対策セミナーを実施し、未修得者の低減を行えました。1年次は、対象者の劣等感をなくすため、セミナー形式ではなく、週2回の宿題対応の時間を設定し、各授業の宿題や課題をスムーズに実施できるよう教員のフォローを行いました。さらに、実技の履修時期に合わせて練習会などを設定してフォローを実施しました。どの学年もアウトプットしながら、復習や理解を深めるよう学習フォローを実践しました。結果として未修得者数、科目数ともに減少できました。

歯科衛生士科では、1年次から国家試験対策を見据えたワークショップ、模擬試験、セミナーを展開しました。学生自らが目標と学習計画を設定し、主体的に学習を進める指導を徹底したことで、受験に対する意識を早期に定着させました。令和6年度に不合格者および原級留置者が過去最多となった危機感から、学内で速やかに検討を重ね、対策の刷新と早期介入を講じました。結果として3年次の原級留置者を1名に抑え、国家試験は全員合格という成果を収めました。最新の出題傾向に沿った問題作成や多角的な指導が機能し、学生の確実な理解力向上へと繋がりました。

④ 就職支援の充実

令和7年度の就職支援においては、例年通り、学生一人ひとりの希望に寄り添った個別カウンセリングを強化しました。その結果、早期内定者の割合が若干増加しました。3学科ともに外部講師によるキャリア教育を数回実施したことで、早期からの動機付けと継続的な伴走支援を行い、学生の進路実現を強力に後押しすることができました。結果、令和8年度も就職希望者に

対して就職率は100%を達成することができました。現状に甘んじることなく、100%の質に拘っていきたいと考えています。

⑤ 企業主導型保育園の運営

園児数は定員数41名に対し最大33名の在籍で平均充足率は75%でした。全国及び近隣の保育施設では子どもの数の減少により、園児の確保が困難となり閉園や事業規模を縮小する施設が少しずつ増えておりますが、なみきッズ保育園においては、常に入園希望者がおり、令和7年度は年度末まで待機児童が解消されることはありませんでした。地域の方々や在園児保護者、また提携企業に向けた、法人施設の対応姿勢が評価されていることを感じる事ができた1年でした。一方で、児童を受け入れる体制整備では、保育士や看護師の有資格者の確保と定着に困難を極め、課題が残る1年でした。有資格者の不足により入園希望者を受け付けることができず、目標としていた定員充足率100%に到達することができませんでした。求人媒体の見直しや新人入職後のフォローと教育体制の整備に合わせて、在籍職員の労働環境の見直しや高い心理的安全性が保たれる文化の構築、育成体制の充実化へも注力し、園児数及び職員数及び収支のバランスが十分で、調和のとれた運営ができるように進めます。

⑥ 附属治療院の運営

附属接骨院は計画どおり救護活動に積極的に参加し、スタッフそれぞれのスキルを上げることができたと思います。また、グラステクニックにおいても積極的に取り入れ、個々のスキルを上げることが出来ました。しかしながら、新患獲得数とリピート率の低さから、年間売り上げは前年度減であり、月別でも前年度アップは3ヶ月のみという結果でした。附属鍼灸院は計画していた啓蒙活動を中心に外部への発信に力を入れて活動を行いました。多くの外部活動参加により相応の周知に至ったと考えていますが、結果として院の売り上げには結びつきませんでした。年間売上は前年度減であり、月別でも前年度アップは3ヶ月のみという結果でした。接骨院、鍼灸院は売上こそ前年度割れとなりましたが、活動そのものや個々のスキルアップにおいては、目標達成に近い結果であったと考えます。

介護ステーションですが、昨年までは利用者数も増加傾向にありましたが、固定利用者の高齢化により、天候や体調によって来院日が大きく左右され、年間平均来院数は前年度減であり、年間売上も前年度減となってしまいました。しかし、定員上限まで利用者が来た場合、見守りやスペースの問題もあり、安全な運営が困難であることも浮き彫りになってきました。高齢者の施設である以上、必要以上に気をつけ、安全性の高い施設としてより多くの方に認知していただく必要があると考えています。地域に根ざし、利用しやすい院、施設として、今後も地域社会の活性化と発展に寄与できるよう努めます。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

本校では中期的な経営計画として、「大学化構想」を協議しています。令和7年度は、構想実現に向けて、宝塚医療大学および高等教育総合研究所を交えて協議を重ねました。しかしながら、大学校舎建設候補地の選定、大学校舎設計案の着手、着工スケジュールの実行といった具体的な段階には至りませんでした。

また、平成医療学園中期計画アクションプランで定めた目標に対して、本校では以下の取り組みを行いましたのでご報告します。まず、「教育力の強化」に関しては卒業率と国家試験合格率の向上を図りました。国家試験合格率は歯科衛生科の100%に続き、全学科で90%以上の高い成果を上げることができました。卒業率に関しては柔整科が目標未達であったものの、最後まで卒業へ導く指導と寄り添った対応を徹底しました。この指導が国家試験合格率にも通じていたと感じます。続いて、「学生募集・広報の強化」に関しては、当然定員充足を到達目標に定め、活動を行いました。結果は「①入学者の確保」で示したとおりですが、教務も連携して取

り組む課題であることを再認識させ、学校全体での関わりを求めました。さらに活動内容は広報運営会議で確認・管理し、正確な状況把握と戦術の修正を図りました。また、「外国人留学生への対応」に関しては、定員を90名から135名に増員したことで、多くの留学生を受け入れた年度でした。日本語能力の向上のみならず、生活指導、マナー・モラル教育にも注力しました。経営面では学生寮の採算性向上が課題として挙がっていますので、改善に向けた取り組みも並行して実行しました。

⑧ 施設設備の整備

令和7年度、施設設備整備計画においては、教職員用PCの更新を予定しておりましたが、昨今のPC価格の高騰を踏まえ、総合的に検討した結果、見送ることといたしました。なお、Windows10のサポート終了に対応するため「拡張セキュリティ更新プログラムESU」を導入し、必要な情報セキュリティ対策を講じております。また、歯科衛生士科及び日本語学科の職員室に設置する複合機については、新規購入を検討しておりましたが、再リースにより対応することといたしました。さらに、歯科衛生士科校舎における設備修繕については、給湯器の新規更新を見送り、部品交換により対応いたしました。

気中開閉器の入替につきましては、業者との価格交渉、メーカーからの開閉器調達及び工事日程の調整に不測の日程を要し、年度内の施工が困難となったことから、実施を見送ることとなりました。現在は、引き続き業者と工事日程調整を行い、入替えの実施に向け対応を進めております。また、日本語学科においては、教育環境の充実を図るため、ホワイトボード、テレビモニター及び保健室の新規整備を実施いたしました。

令和8年度の施設設備整備計画においては、日本語学科の空調設備の故障に伴うエアコン更新工事を実施するほか、教職員用PCについては導入時期を分散し、複数年度にわたる計画的な更新を実施する予定としております。今後におきましても、学生教育環境の向上を最優先事項としつつ、計画的かつ効率的な施設設備の整備及び適切な運用に努めて参ります。

⑨ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

柔整科、鍼灸科は学科開設以降、全国柔整鍼灸協同組合と密接な関係性を保っています。継続なので内容的には同じになりますが、本校が開催する業界団体説明会や教育課程編成委員会へ参加いただき、業界の発展に向けての講演や情報共有を行っています。その他、組合主催の研究会などにも参加しております。また、昨年から考えている柔道整復師、鍼灸師を多くの方に認知していただくための啓蒙活動は、学校単体では行っているものの、組合との連携で実施することが出来ていません。次年度はより具体的な策を考え、実施に向けて行動に移したいと考えています。

(8) 法人本部

① 規程整備の推進

令和7年4月1日に改正された私立学校法に基づき寄附行為を変更し、内部統制システム整備の基本方針を策定しました。

宝塚医療大学附属統合医療臨床センターに日本の伝統医療と西洋医療との統合医療の実現を目指し、学生へのアントレプレナーシップ教育の推進のために、令和7年3月28日付で同センター内に宝塚医療大学附属クリニックを設置して付随事業の開始に係る寄附行為変更認可申請を行い、令和7年7月25日付で文部科学大臣から認可されました。

また、寄附行為で学校法人の組織及び理事会の委任先を明確にすることになったので、令和8年3月26日付で寄附行為に常任理事会の設置を規定する寄附行為変更認可申請を行いました。

引き続き、諸規程を整備するとともに新たな寄附行為と整合しない条文等を確認し、諸規程の更新を行います。

② 情報公開の充実

令和7年4月1日に改正された私立学校法に基づき、収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書、事業報告書、財務の参考資料、役員及び評議員の報酬等の支給基準を速やかに公表してホームページの管理システムを整備しました。

また、改正私立学校法に基づき、寄附行為を変更し令和7年7月25日付で認可された最新の寄附行為を速やかに公表しています。

③ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人平成医療学園中期計画委員会を令和7年5月23日に開催し、中期計画委員会規程については、令和7年4月1日施行の寄附行為に従って組織等の規程を改正しました。

新たに策定した学校法人平成医療学園中期計画で、法人本部が統括的な役割を担う、「学園全体の財政基盤の強化」「学生募集・広報の強化」「外国人留学生への対応の学園全体のシステム化」については、法人本部の人員不足から着手・進展させることができない項目が多く達成度も低くなりました。

「新規展開の検討と着手」について、保育園の事業譲受の手続を進めていましたが、認可保育園2園については、事業譲受の条件が整わなかったために保育所設置認可申請書を取り下げました。また、企業主導型保育園5園については、助成金の関係で財産処分承認申請書を取り下げ、小規模保育園1園も必要な書類が提出できなかったために保育事業認可申請書を取り下げました。医療法人美和会のクリニックについては、宝塚医療大学の附属病院化の検討を着手して進めています。

「ガバナンスの強化」については、改正私立学校法に伴う寄附行為変更申請が認可され、それに伴う学校法人平成医療学園内部統制システム整備の基本方針を制定すると共に既存規程の充実及び新規の規程の整備を行いました。また、兼務であった内部監査室長を令和7年4月1日より専任とし選任として内部監査機能を強化しました。

新たな寄附行為で業務執行理事が規定され、学長・校長等が業務執行理事としてリーダーシップを執って学校運営を行うことになったため統括長制度を廃止しました。

④ 企業主導型保育園の運営

令和7年度は、企業主導型保育園として平成保育園及び宝塚医療大学附属保育園の安定運営に取り組みました。教職員の福利厚生施設としての役割に加え、地域に根差した保育園運営を継続した結果、園児数も安定して推移しており、地域からの認知・信頼が着実に高まっていることを実感しています。

特に、病児・病後児保育室については前年度以上に稼働率が向上しており、多くの地域保護者に利用いただくことで、地域の子育て支援施設として一定の役割を果たすことができました。

保育においては、「子どもが主体の保育」を基本方針とし、子ども一人ひとりに寄り添いながら、安心して過ごせる保育環境づくりに努めました。今後も、地域社会に必要とされる保育園を目指し、保育の質向上と安定運営に取り組んでまいります。

3 理事会・評議員会の開催状況

◆ 理事会

(令和7年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和7年5月28日	第1号議案：令和6年度決算（案）について 第2号議案：令和6年度事業報告書（案）について 第3号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について 第4号議案：平成医療学園専門学校の校長の選任について 第5号議案：理事会が選任する評議員の選任について 第6号議案：新理事候補者の選考について 第7号議案：宝塚医療大学附属介護ステーション芦屋の設置について 第8号議案：宝塚医療大学附属介護ステーション芦屋地域密着型通所介護・介護予防・日常生活支援総合事業における指定予防専門型通所サービス運営規程の制定（案）について 第9号議案：宝塚医療大学学内ボランティア活動による宮古島学生寮寮費減免制度規程の廃止について 第10号議案：和歌山看護専門学校の令和6年度私立学校（法人）検査の結果について 第11号議案：社会福祉法人山の子会への仮払いについて 第12号議案：6月の定時評議員会の開催・議題等について 第13号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第14号議案：その他
令和7年6月19日	第1号議案：全柔協FC株式会社からの短期借入金について 第2号議案：宝塚医療大学社会福祉士養成課程について 第3号議案：給与役員報酬、教育経費及び管理経費の減額について 第4号議案：不当利得返還等請求事件の訴状の弁護を弁護士折田泰宏氏に委任することについて 第5号議案：その他
令和7年6月26日	第1号議案：理事長の選定について 第2号議案：代表業務執行理事の選定について 第3号議案：監事の選任について（報告） 第4号議案：評議員会が選任する評議員の選任について（報告） 第5号議案：理事の競業について 第6号議案：名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について 第7号議案：令和6年度大学機関別認証評価の評価結果の変更について 第8号議案：その他
令和7年7月15日	第1号議案：会計監査人の選任について 第2号議案：評議員会の開催・議題等について 第3号議案：全柔協FC株式会社からの短期借入金について（報告） 第4号議案：その他

令和7年8月22日	第1号議案：常任理事会理事の選任について 第2号議案：会計監査人に対する報酬等について 第3号議案：学校法人平成医療学園における管理運営上の懸念点について（追加確認）（回答案） 第4号議案：宝塚医療大学附属クリニックの開設に係る改修工事の実施について 第5号議案：横浜医療専門学校学則の一部変更（案）について 第6号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部変更（案）について 第7号議案：なにわ歯科衛生専門学校の臨床実習施設の一部変更（案）について 第8号議案：教職員への寄付金募集について 第9号議案：資金の短期借入金について（報告） 第10号議案：その他
令和7年9月19日	第1号議案：評議員会の開催・議題等について 第2号議案：その他
令和7年9月26日	第1号議案：令和7年度第一次補正予算（案）について 第2号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について 第3号議案：その他
令和7年10月30日	第1号議案：令和8年度学校法人平成医療学園予算編成方針（案）について 第2号議案：社会福祉法人山の子会からの保育園の事業譲受金額の見直しについて 第3号議案：学校法人平成医療学園評議員数の変更について 第4号議案：評議員会の開催・議題等について 第5号議案：文部科学省高等教育局私学部参事官付学校法人経営指導室への回答について（報告） 第6号議案：学校法人平成医療学園改善委員会について（報告） 第7号議案：学校法人平成医療学園従業員労働組合との第1回団体交渉について（報告） 第8号議案：その他
令和7年11月6日	第1号議案：評議員会で選任した評議員の選任条項変更及び辞任について（報告） 第2号議案：評議員会が選任する評議員の選任について（報告） 第3号議案：理事会で選任した評議員の選任条項変更について 第4号議案：理事会が選任する評議員の選任について 第5号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第6号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について 第7号議案：宝塚医療大学社会福祉士短期養成課程の廃止について 第8号議案：福島医療専門学校育児・介護休業規程の一部改正（案）について 第9号議案：福島医療専門学校給与規程の一部改正（案）について 第10号議案：福島医療専門学校専任講師就業規則の一部改正（案）について 第11号議案：福島医療専門学校歯科衛生士科臨床実習施設の一部変更（案）について 第12号議案：その他

令和7年12月24日	第1号議案：社会福祉法人山の子会保育園事業譲受に関する学校法人平成医療学園改善第三者委員会からの回答について 第2号議案：評議員会の開催・議案等について 第3号議案：学校法人平成医療学園改善第三者委員会の中間報告について（報告） 第4号議案：会計監査人の辞任について（報告） 第5号議案：資金の短期借入について（報告） 第6号議案：学校法人札幌青葉学園の債務保証の解除について（報告） 第7号議案：その他
令和8年1月6日	第1号議案：常任理事会に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について 第2号議案：宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について 第3号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第5号議案：その他
令和8年1月15日	第1号議案：社会福祉法人山の子会茶屋中津保育園事業の無償譲受について 第2号議案：会計監査人の選任について 第3号議案：評議員会の開催・議案等について 第4号議案：その他
令和8年1月31日	第1号議案：社会福祉法人山の子会茶屋中津保育園事業の無償譲受について 第2号議案：その他
令和8年2月13日	第1号議案：会計監査人の選任について 第2号議案：評議員会の開催・議案等について 第3号議案：資金の短期借入について 第4号議案：その他
令和8年2月19日	第1号議案：会計監査人の意見を参考にした社会福祉法人山の子会茶屋保育園の事業譲受について 第2号議案：評議員会の開催・議題等について 第3号議案：その他

◆ 常任理事会

（令和7年度開催実績）

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和7年8月22日	第1号議案：令和7年度顧問の報酬について 第2号議案：その他
令和7年11月6日	第1号議案：顧問契約について 第2号議案：その他
令和8年2月24日	第1号議案：りそな銀行免責的債務引受についての対応 第2号議案：その他

◆ 評議員会

(令和7年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和7年6月19日	第1号議案：令和6年度決算について 第2号議案：令和6年度事業報告書について 第3号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について(報告) 第4号議案：平成医療学園専門学校の校長の選任について（報告） 第5号議案：理事の選任について 第6号議案：理事会が選任する評議員の選任について（報告） 第7号議案：評議員会が選任する評議員の選任について 第8号議案：監事の選任について 第9号議案：全柔協FC株式会社からの短期借入金について 第10号議案：社会福祉法人山の子会への仮払いについて 第11号議案：その他
令和7年7月23日	第1号議案：学校法人平成医療学園評議員会議長の選任について 第2号議案：会計監査人の選任について 第3号議案：全柔協FC株式会社からの短期借入金について（報告） 第4号議案：その他
令和7年9月26日	第1号議案：令和7年度第一次補正予算（案）について 第2号議案：なにわ歯科衛生専門学校学則の一部改正（案）について 第3号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：宝塚医療大学附属クリニックの開設に係る改修工事の実施について（報告） 第5号議案：資金の短期借入金について（報告） 第6号議案：その他
令和7年11月6日	第1号議案：学校法人平成医療学園評議員数の変更について 第2号議案：評議員会で選任した評議員の選任条項変更について 第3号議案：評議員会で選任した評議員の辞任について 第4号議案：評議員会が選任する評議員の選任について 第5号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第6号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について 第7号議案：社会福祉法人山の子会からの保育園の事業譲受金額の見直しについて 第8号議案：令和8年度学校法人平成医療学園予算編成方針について（報告） 第9号議案：文部科学省高等教育局私学部参事官付学校法人経営指導室への回答について（報告） 第10号議案：学校法人平成医療学園改善委員会について（報告） 第11号議案：学校法人平成医療学園従業員労働組合との第1回団体交渉について（報告） 第12号議案：その他

令和8年1月6日	第1号議案：社会福祉法人山の子会保育園事業譲受に関する学校法人平成医療学園改善第三者委員会からの回答について 第2号議案：常任理事会に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について 第3号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について 第4号議案：学校法人平成医療学園改善第三者委員会の中間報告について(報告) 第5号議案：会計監査人の辞任について（報告） 第6号議案：資金の短期借入について（報告） 第7号議案：学校法人札幌青葉学園の債務保証の解除について（報告） 第8号議案：理事会で選任した評議員及び選任条項変更について（報告） 第9号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第10号議案：その他
令和8年1月22日	第1号議案：社会福祉法人山の子会茶屋中津保育園事業の無償譲受について 第2号議案：会計監査人の選任について 第3号議案：その他
令和8年2月13日	第1号議案：会計監査人の選任について 第2号議案：社会福祉法人山の子会茶屋中津保育園事業の無償譲受について 第3号議案：資金の短期借入について 第4号議案：その他
令和8年2月19日	第1号議案：会計監査人の意見を参考にした社会福祉法人山の子会茶屋保育園の事業譲受について 第2号議案：その他
令和8年3月25日	第1号議案：令和7年度第二次補正予算（案）について 第2号議案：令和8年度事業計画（案）について 第3号議案：令和8年度予算（案）について 第4号議案：りそな銀行免責的債務引受についての対応 第5号議案：横浜医療専門学校学則の一部改正（案）について 第6号議案：学校教育法等改正に係る名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について 第7号議案：授業料等納付金変更に係る名古屋平成看護医療専門学校学則の一部改正（案）について 第8号議案：福島医療専門学校学則の一部改正（案）について 第9号議案：平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、なにわ歯科衛生専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校及び福島医療専門学校の校長の選任について（報告） 第10号議案：社会福祉法人山の子会茶屋中津保育園の事業譲受について(報告) 第11号議案：社会福祉法人山の子会茶屋保育園の事業譲受について（報告） 第12号議案：宝塚医療大学附属クリニックの開設に伴う改修工事の金額変更について（報告） 第13号議案：文部科学省高等教育局私学部参事官付学校法人経営指導室への回答について（報告） 第14号議案：学友会費の会計処理に関する会計監査人の意見書について(報告) 第15号議案：その他
令和8年3月30日	第1号議案：令和7年度第二次補正予算（案）について 第2号議案：令和8年度予算（案）について 第3号議案：その他

4 学位又は称号

(1) 取得可能な学位又は称号

◆ 宝塚医療大学

学部	学科	学位
保健医療学部	理学療法学科	学士（保健医療学）
	柔道整復学科	学士（保健医療学）
	鍼灸学科	学士（保健医療学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）
和歌山保健医療学部	リハビリテーション学科	学士（保健医療学）
	看護学科	学士（看護学）
観光学部	観光学科	学士（観光学）

（注）理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科・口腔保健学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。リハビリテーション学科作業療法学専攻・理学療法学専攻でも、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。看護学科では看護師国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、口腔保健学科及び看護学科を除く全学科で教員免許（中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育））を、理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科ではアスレチック・トレーナー資格（JATAC-ATC）を取得可能。

◆ 平成医療学園専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
	東洋療法教員養成学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）
	応用日本語学科 2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、医療専門課程全科において、AEAJアロマセラピーアドバイザー、日本スポーツ協会スポーツリーダー、及び日本障がい者スポーツ協会初級障害者スポーツ指導者の資格を取得可能とし、さらに柔道整復師科・鍼灸師科では、アスレチック・トレーナー（JATAC-ATC）の資格も取得可能。

東洋療法教員養成学科では、あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員資格を取得可能。

◆ 横浜医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

（注）歯科衛生士国家試験受験資格に加え、所定のカリキュラムを履修することにより、介護職員初任者研修、移動支援従業者（全身性障がい）、移動支援従業者（知的障がい）資格を取得可能。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）
	理学療法学科	高度専門士（医療専門課程）
	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	はり・きゅう学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー学科	専門士（文化・教養専門課程）

（注）看護学科・理学療法学科・柔道整復学科・はり・きゅう学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。アスレティックトレーナー学科では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの受験資格を取得可能。

◆ 日本総合医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸学科	専門士（医療専門課程）

（注）それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ 福島医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔整科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸科	専門士（医療専門課程）
	歯科衛生士科1・2部	専門士（医療専門課程）

（注）柔整科・鍼灸科・歯科衛生士科1・2部では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

(2) 学位授与数及び授与率

◆ 宝塚医療大学

（令和7年度、単位：名）

学科	学位授与数	卒業学年在籍者数	学位授与率
理学療法学科	53	75	70.6%
柔道整復学科	42	57	73.6%
鍼灸学科	24	39	61.5%
リハビリテーション学科	100	101	99.0%
看護学科	51	55	92.7%
合 計	270	327	82.6%

（注）「卒業学年在籍者数」は令和5年5月1日現在。

5 学生生徒等納付金

◆ 宝塚医療大学

(令和8年度、単位：円)

理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	437,500	437,500	437,500	437,500
実習費	325,000	325,000	325,000	325,000
合 計	2,012,500	1,712,500	1,712,500	1,712,500
柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	437,500	437,500	437,500	437,500
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,987,500	1,687,500	1,687,500	1,687,500
口腔保健学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	700,000	700,000	700,000	700,000
施設管理費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,500,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
リハビリテーション学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	850,000	850,000	850,000	850,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000	400,000
実習費	275,000	275,000	275,000	275,000
合 計	1,825,000	1,525,000	1,525,000	1,525,000
看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
施設管理費	300,000	300,000	300,000	300,000
実習費	150,000	150,000	150,000	150,000
合 計	1,750,000	1,450,000	1,450,000	1,450,000
観光学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	800,000	800,000	800,000	800,000
施設管理費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,400,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000

(注) 上記のほか、学友会費、後援会費、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

留学生別科 1年課程	1年次	—
入学金	120,000	—
授業料	620,000	—
合 計	740,000	—
留学生別科 1年6ヶ月課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	310,000
合 計	740,000	310,000
留学生別科 2年課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	620,000
合 計	740,000	620,000

介護福祉別科	1年次	2年次
入学金	200,000	—
授業料	850,000	850,000
施設管理費	0	0
実習費	0	0
合 計	1,050,000	850,000

社会福祉士養成課程 一般養成課程(1年9か月)	1年次
入学金	30,000
授業料	270,000
実習費	120,000
合 計	420,000

(注) 実習費は、実習履修者のみ必要。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和8年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
教材費	200,000	200,000	200,000
合 計	1,560,000	1,310,000	1,310,000
東洋療法教員養成学科	1年次	2年次	—
入学金	250,000	—	—
授業料	600,000	600,000	—
施設管理費	200,000	200,000	—
教材費	200,000	200,000	—
合 計	1,250,000	1,000,000	—
日本語学科 日本語・医療福祉系1年コース	1年次	—	—

入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	—	—
合 計	720,000	—	—
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	310,000	620,000	—
合 計	410,000	620,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	620,000	—
合 計	720,000	620,000	—
応用日本語学科 1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	670,000	—	—
合 計	770,000	—	—
応用日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	670,000	670,000	—
合 計	770,000	670,000	—

(注) 上記のほか、学生会費、教科書代、白衣代（医療専門課程のみ）等の諸経費が必要となります。

◆ 横浜医療専門学校

(令和8年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	240,000	—	—
授業料	840,000	840,000	840,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,520,000	1,280,000	1,280,000
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	325,000	650,000	—
合 計	425,000	650,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	650,000	650,000	—
合 計	750,000	650,000	—

(注) 上記のほか、学生会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和8年度、単位：円)

歯科衛生士学科 昼間	1年次	2年次	3年次
入学金	100,000	—	—

授業料	640,000	640,000	640,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	100,000	100,000	100,000
合 計	1,040,000	940,000	940,000
歯科衛生士学科 夜間	1年次	2年次	3年次
入学金	50,000	—	—
授業料	590,000	590,000	590,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	80,000	80,000	80,000
合 計	920,000	870,000	870,000

(注) 上記のほか、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和8年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	270,000	270,000	270,000	—
合 計	1,640,000	1,390,000	1,390,000	—
理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	920,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	230,000	230,000	230,000	230,000
合 計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
柔道整復学科・はり・きゅう学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	200,000	200,000	200,000	—
合 計	1,520,000	1,270,000	1,270,000	—
アスレティックトレーナー学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	150,000	—	—	—
授業料	680,000	680,000	680,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	270,000	270,000	270,000	—
合 計	1,300,000	1,150,000	1,150,000	—

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、学校行事・健康管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和8年度、単位：円)

柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	900,000	900,000	900,000
施設管理費	100,000	100,000	100,000
実技実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,400,000	1,200,000	1,200,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 福島医療専門学校

(令和8年度、単位：円)

柔整科・鍼灸科	1年次	2年次	3年次
入学金	300,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	120,000	120,000	120,000
実習費※	150,000	150,000	150,000
合 計	1,440,000	1,140,000	1,140,000
歯科衛生士科	1年次	2年次	3年次
入学金	300,000	—	—
授業料	450,000	450,000	450,000
施設管理費	120,000	120,000	120,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,070,000	770,000	770,000
日本語学科 1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	50,000	—	—
授業料	260,000	520,000	—
教材費	50,000	50,000	—
施設管理費	50,000	50,000	—
学生活動費	30,000	30,000	—
学生災害保険	5,800	10,000	—
合 計	465,800	660,000	—
日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	50,000	—	—
授業料	520,000	520,000	—
教材費	50,000	50,000	—
施設管理費	50,000	50,000	—
学生活動費	30,000	30,000	—
学生災害保険	10,000	10,000	—
合 計	730,000	660,000	—

(注) 上記のほか、教材費、学友会費、教科書代・白衣代等の諸経費が必要となります。

6 卒業及び就職等の状況

(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
理学療法学科	53	47	0	0	6
柔道整復学科	42	37	2	0	3
鍼灸学科	24	22	1	0	1
リハビリテーション学科	100	95	0	0	5
看護学科	51	48	0	2	1
合 計	270	249	3	2	16

(令和8年5月1日現在、単位：名)

別科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
留学生別科（東京キャンパス）	33	5	4	21	3
留学生別科（大阪難波キャンパス）	450	43	12	359	36
介護福祉別科	60	58	0	1	1
合 計	543	106	16	381	40

◆ 平成医療学園専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間 I 部	36	30	0	4	2
鍼灸師科 昼間	38	33	0	0	5
東洋療法教員養成学科	9	7	0	0	2
日本語学科 日本語1年コース	1	0	0	1	0
日本語学科 医療福祉系1年コース	3	0	0	3	0
日本語学科 進学1.5年コース	57	0	3	44	10
日本語学科 進学2年コース	71	0	4	62	5
応用日本語学科 1年コース	23	0	2	17	4
応用日本語学科 2年コース	19	0	2	16	1
合 計	257	70	11	147	29

◆ 横浜医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間	33	27	2	4	0

柔道整復師科 夜間	15	9	0	0	6
鍼灸師科 昼間	46	34	4	2	6
鍼灸師科 夜間	11	7	1	0	3
日本語学科 進学1.5年コース	20	0	0	20	0
日本語学科 進学2年コース	21	0	2	18	1
合 計	146	77	9	44	16

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間	70	51	3	0	16
歯科衛生士学科 夜間	39	32	0	0	7
合 計	109	83	3	0	23

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	34	34	0	0	0
理学療法学科	20	16	2	0	2
柔道整復学科 昼間	16	15	1	0	0
はり・きゅう学科 昼間	35	33	1	0	1
アスレティックトレーナー学科	15	9	1	3	2
合 計	120	107	5	3	5

◆ 日本総合医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科	24	23	0	1	0
鍼灸学科	8	8	0	0	0
合 計	32	31	0	1	0

◆ 福島医療専門学校

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔整科	34	29	1	3	1
鍼灸科	14	13	0	0	1
歯科衛生士科	50	48	0	0	2
日本語学科	37	0	2	32	3
合 計	135	90	3	35	7

- 「就職者」とは、「正規の職員・従業員・自営業主等」又は「正規の職員ではない者のうち雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者」をいう。
- 在学中既に職に就いている者で、卒業後も引き続きその職にある場合は「就職者」に含める。
- 「就職者数（関係分野）」とは、卒業者が当該大学・専門学校に在学した学科の専門分野と同等又は関連のある分野の職業に就いた場合をいう。
- 「就職者数（その他分野）」とは、上記「就職者数（関係分野）」以外で、当該大学・専門学校で履修した学科とは直接関係のない分野に就職した者をいう。

(2) 主な就職先

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在)

学科	主な就職先
理学療法学科	公立大学法人大阪 大阪公立大学、川西リハビリテーション病院、公立豊岡病院組合、社会医療法人明生会 明生第二病院、大阪府済生会吹田病院、医療法人甲友会 西宮協立リハビリテーション病院、国立病院機構 神戸医療センター、大阪暁明館病院、医療法人せいふう会 伊丹せいふう病院、医療法人 愛仁会 高槻病院、岡山大学病院、医療法人仁寿会 石川病院、社会医療法人財団聖フランシスコ会姫路聖マリア病院、医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院、医療法人協和会、国立病院機構大阪医療センター、大西脳神経外科病院、JCHO 星ヶ丘医療センター、医療法人はあとふる 運動器ケアしまだ病院、社会福祉法人愛徳園 愛徳医療福祉センター
柔道整復学科	筋膜専門なごみ鍼灸整骨院、フロンティア整骨院・鍼灸院グループ、なかのう鍼灸接骨院、平川接骨院グループ、株式会社 HITOMIOテクノロジー、株式会社日本セラピー、やつか鍼灸整骨院、株式会社Y.O.I.JAPAN with.鍼灸整骨院、株式会社フューチャシップ、株式会社KMC 小林整骨院グループ、MOVEACTION株式会社、有限会社J-RADIENCE かがやき整骨院、柏の葉整形外科リハビリテーションクリニック、株式会社すこやか、北村整骨院、サンキューグループ、株式会社ヒューマンアジャスト、株式会社エルフレッチェ、株式会社KKD(健康堂)、株式会社Rieden
鍼灸学科	Solace-ソラスポーツ鍼灸整骨院、株式会社リーフ、日本セラピー株式会社、株式会社TSC モリタ鍼灸整骨院、株式会社フューチャシップ、株式会社モリタメディカル、たなごころ鍼灸整骨院、有限会社J-RADIENCE かがやき整骨院、株式会社HITOMIOテクノロジー、株式会社Rieden、クシオ株式会社、三田やすらぎ鍼灸整骨院、株式会社エルフレッチェ、株式会社Gaku はりきゅうルーム岳
リハビリテーション学科	社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院医療法人、交詢医会 大阪リハビリテーション病院 社会医療法人 スミヤ
看護学科	公立大学法人 和歌山県立医科大学附属病院、独立行政法人 労働者健康安全機構 和歌山労災病院

7 国家試験の受験状況

◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
理学療法士国家試験	52	47	90.4%	94.9%
柔道整復師国家試験	42	39	92.9%	90.3%
はり師国家試験	24	20	83.3%	83.4%
きゅう師国家試験	24	20	83.3%	85.9%

◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
理学療法士国家試験	63	62	98.4%	94.9%
作業療法士国家試験	37	34	91.9%	96.6%
看護師国家試験	51	50	98.0%	94.1%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	36	33	91.7%	90.3%
はり師国家試験	38	38	100.0%	83.4%
きゅう師国家試験	38	37	97.4%	85.9%

◆ 横浜医療専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	42	42	100.0%	90.3%
はり師国家試験	47	39	83.0%	83.4%
きゅう師国家試験	47	40	85.1%	85.9%

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	109	97	89.0%	97.2%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	34	26	76.5%	94.1%
理学療法士国家試験	20	16	80.0%	94.9%
柔道整復師国家試験	16	15	93.8%	90.3%
はり師国家試験	37	35	94.6%	83.4%

きゅう師国家試験	37	35	94.6%	85.9%
----------	----	----	-------	-------

◆ 日本総合医療専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	24	23	95.8%	90.3%
はり師国家試験	8	5	62.5%	83.4%
きゅう師国家試験	8	7	87.5%	85.9%

◆ 福島医療専門学校

(令和7年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	33	32	97.0%	90.3%
はり師国家試験	14	13	92.9%	83.4%
きゅう師国家試験	14	13	92.9%	85.9%
歯科衛生士国家試験	50	50	100%	97.2%

8 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率

(1) 退学者数

◆ 宝塚医療大学

(令和7年度、単位：名)

学科	退学者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	1	1	2	3	7
柔道整復学科	2	4	1	2	9
鍼灸学科	0	0	0	1	1
口腔保健学科	0	1	0	—	1
保健医療学部 小計	3	6	3	6	18
リハビリテーション学科	1	2	3	1	7
看護学科	4	1	0	3	8
和歌山保健医療学部 小計	5	3	3	4	15
観光学科	4	0	—	—	4
観光学部 小計	4	0	—	—	4
合 計	12	9	6	10	37

(2) 除籍者数

◆ 宝塚医療大学

(令和7年度、単位：名)

学科	除籍者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	1	0	2	3
柔道整復学科	0	0	0	1	1
鍼灸学科	0	0	0	1	1
口腔保健学科	0	0	1	—	1
保健医療学部 小計	0	1	1	4	6
リハビリテーション学科	0	1	0	0	1
看護学科	0	0	0	0	0
和歌山保健医療学部 小計	0	1	0	0	1
観光学科	2	2	—	—	4
観光学部 小計	2	2	—	—	4
合 計	2	4	1	4	11

(3) 留年者数

◆ 宝塚医療大学

(令和7年度、単位：名)

学科	留年者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	0	0	17	17
柔道整復学科	0	0	0	12	12

鍼灸学科	0	0	0	13	13
口腔保健学科	0	0	0	0	0
保健医療学部 小計	0	0	0	42	42
リハビリテーション学科	1	1	4	0	6
看護学科	0	2	0	1	3
和歌山保健医療学部 小計	1	3	4	1	9
観光学科	0	0	0	0	0
観光学部 小計	0	0	0	0	0
合 計	1	3	4	43	51

(4) 中退率

◆ 宝塚医療大学

(令和7年中の退学・除籍者数／令和7年5月1日現在の在籍者数)

学科	中退率			
	1年	2年	3年	4年
理学療法学科	2.6%	5.4%	3.6%	6.7%
柔道整復学科	4.7%	9.5%	2.0%	5.3%
鍼灸学科	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%
口腔保健学科	0.0%	8.3%	17.0%	0.0%
保健医療学部 小計	2.5%	6.7%	2.9%	5.8%
リハビリテーション学科	2.0%	5.7%	3.7%	1.0%
看護学科	8.3%	2.4%	0.0%	5.5%
和歌山保健医療学部 小計	5.0%	4.2%	2.3%	2.5%
観光学科	12.0%	11.1%	0.0%	—
観光学部 小計	12.0%	11.1%	0.0%	—
合 計	6.5%	7.3%	2.6%	4.2%

9 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数

(1) 社会人学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	社会人学生数
理学療法学科	1
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
口腔保健学科	2
保健医療学部 小計	3
リハビリテーション学科	1
看護学科	1
和歌山保健医療学部 小計	2
観光学科	0

観光学部 小計	0
合 計	5

(注) 「社会人」とは、職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者をいう。また、企業等を退職した者及び主婦等も含む。

(2) 留学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和8年5月1日現在、単位：名)

学科	留学生数
理学療法学科	1
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
口腔保健学科	2
保健医療学部 小計	3
リハビリテーション学科	1
看護学科	1
和歌山保健医療学部 小計	2
観光学科	0
観光学部 小計	0
合 計	5

(3) 海外派遣学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和7年度、単位：名)

学科	海外派遣学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
口腔保健学科	0
保健医療学部 小計	0
リハビリテーション学科	0
看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
観光学科	0
観光学部 小計	0
合 計	0

III. 財務の概要

1 決算の概要

① 貸借対照表関係

(ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

資産の部					
科目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
固定資産	17,938,175	18,297,531	16,328,737	16,111,012	13,320,726
有形固定資産	16,462,469	16,842,391	16,588,758	15,361,759	15,296,643
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	1,475,705	1,455,140	1,549,736	966,978	814,369
流動資産	1,859,660	1,194,150	2,956,668	4,710,427	3,044,624
資産の部合計	19,797,835	19,491,681	19,285,405	20,821,439	16,365,350
負債の部					
科目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
固定負債	4,277,665	4,371,572	4,988,215	5,690,359	4,983,601
流動負債	4,734,083	3,865,957	4,058,270	3,559,946	2,853,224
負債の部合計	9,011,748	8,237,529	9,046,485	9,250,305	7,836,825
純資産の部					
科目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
基本金	18,304,836	17,710,357	16,255,599	16,255,599	16,255,599
第1号基本金	17,773,836	17,179,357	15,898,599	15,898,599	15,898,599
第2号基本金			0	0	0
第3号基本金			0	0	0
第4号基本金	531,000	531,000	357,000	357,000	357,000
繰越収支差額	△ 7,518,749	△ 6,456,205	△ 4,206,922	△ 2,841,568	△ 3,226,703
純資産の部合計	10,786,087	11,254,152	12,048,677	13,414,031	13,028,896
負債及び純資産の部合計	19,797,835	19,491,681	21,095,162	22,664,336	20,865,721

(イ) 財務比率の経年比較

財務比率	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
運用資産余裕比率	-45.4%	-54.9%	-45.0%	-36.5%	-68.3%
純資産構成比率	54.5%	57.7%	57.1%	59.2%	62.4%
繰越収支差額構成比率	-38.0%	-33.1%	-19.9%	-12.5%	-15.5%
固定比率	166.3%	162.6%	135.5%	120.1%	102.2%
固定長期適合率	119.1%	117.1%	95.8%	84.3%	74.0%
流動比率	39.3%	30.9%	72.9%	132.3%	106.7%
総負債比率	45.5%	42.3%	46.9%	44.4%	47.9%
負債比率	83.5%	73.2%	75.1%	69.0%	60.1%
前受金保有率	53.0%	35.0%	80.4%	167.9%	118.7%
基本金比率	86.8%	85.2%	81.8%	89.4%	92.1%
減価償却費率	31.3%	28.0%	26.4%	23.5%	23.4%
積立率	35.8%	24.8%	71.5%	156.7%	111.6%

② 事業活動収支計算書関係

(ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

教育活動収支	科目		令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	収入の部	学生生徒等納付金	5,087,780	5,361,248	5,579,955	4,121,643	3,315,916
		手数料	83,483	66,179	71,538	61,613	46,827
		寄付金	34,853	24,700	118,347	7,916	75
		経常費等補助金	701,120	606,580	563,317	437,307	438,222
		付随事業収入	310,192	321,255	438,361	208,150	91,301
		雑収入	149,156	105,552	103,550	117,290	74,318
		教育活動収入計	6,366,584	6,485,514	6,875,068	4,953,919	3,966,659
	支出の部	人件費	3,664,386	3,503,595	3,001,756	2,282,887	2,176,006
		教育研究経費	2,149,752	1,944,499	2,728,250	1,692,245	1,354,778
		管理経費	1,096,896	1,193,875	1,181,483	904,358	1,194,239
		徴収不能額等	10,618	556,400	530,781	22,979	2,094
		教育活動支出計	6,921,652	7,198,369	7,442,270	4,902,469	4,727,117
教育活動収支差額		△ 555,068	△ 712,855	△ 567,202	51,450	△ 760,458	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	10,701	24,159	9,575	7,502	4,485
		雑収入	115,800	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	19,593	19,521	22,296	8,970	8,350
		教育活動外収入計	146,094	43,680	31,871	16,472	12,835
	支出の部	借入金等利息	55,112	50,661	40,850	41,172	47,585
		その他の教育活動外支出	0	51	876	1,020	1,148
		教育活動外支出計	55,112	50,712	41,726	42,192	48,733
	教育活動外収支差額		90,982	△ 7,032	△ 9,855	△ 25,720	△ 35,898
	経常収支差額		△ 464,086	△ 719,887	△ 577,057	25,730	△ 796,356
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	73,780	0
		その他の特別収入	190	25,217	851,008	389,057	3,437,960
		特別収入計	190	25,217	851,008	462,837	3,437,960
	支出の部	資産処分差額	300	21,137	12,821	18,498	80,296
		その他の特別支出	3,868	78,718	1,312	20	1,994
		特別支出計	4,168	99,855	14,133	18,518	82,290
	特別収支差額		△ 3,978	△ 74,638	836,875	444,319	3,355,670
〔予備費〕		0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		△ 468,064	△ 794,525	259,818	470,049	2,559,314	
基本金組入額合計		△ 594,479	△ 1,454,758	△ 1,625,172	△ 84,913	△ 3,413,094	
当年度収支差額		△ 1,062,543	△ 2,249,283	△ 1,365,354	385,136	△ 853,780	
前年度繰越収支差額		△ 6,456,205	△ 4,206,922	△ 2,841,568	△ 3,226,704	△ 2,372,924	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 7,518,748	△ 6,456,205	△ 4,206,922	△ 2,841,568	△ 3,226,704	
(参考)							
事業活動収入計		6,512,868	6,554,411	7,757,947	5,433,228	7,417,454	
事業活動支出計		6,980,932	7,348,936	7,498,129	4,963,179	4,858,140	

(イ) 財務比率と経年比較

財務比率	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
人件費比率	56.3%	53.7%	43.5%	45.9%	54.7%
教育研究経費比率	33.0%	29.8%	39.5%	34.0%	34.0%
管理経費比率	16.8%	18.3%	17.1%	18.2%	30.0%
事業活動修正差額比率	-7.2%	-12.2%	3.8%	9.5%	64.3%
学生生徒等納付金比率	78.1%	82.1%	80.8%	82.9%	83.3%
経常収支差額比率	-7.1%	-11.0%	-8.4%	0.5%	-20.0%

③ 資金収支計算書関係

(ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	5,087,780	5,361,248	5,579,955	4,121,593	3,315,916
	手数料収入	83,483	66,179	71,538	61,613	46,827
	寄付金収入	28,205	24,700	126,880	7,916	8
	補助金収入	701,120	624,730	578,992	437,307	439,713
	資産売却収入	11,173	13,794	364,673	660,977	317,470
	付随事業・収益事業収入	329,786	340,776	460,657	217,120	99,651
	受取利息・配当金収入	10,701	24,260	9,575	7,502	4,485
	雑収入	69,992	105,852	105,726	117,373	75,099
	借入金等収入	1,652,417	1,430,000	0	600,000	500,000
	前受金収入	3,277,186	2,932,872	3,025,033	2,642,671	2,155,387
	その他の収入	2,080,412	2,206,425	2,300,636	2,072,474	1,688,308
	資金収入調整勘定	△ 3,019,143	△ 3,092,613	△ 3,255,585	△ 2,362,195	△ 2,152,333
	前年度繰越支払資金	1,027,532	2,433,184	4,436,276	2,596,897	2,720,753
収入の部合計		11,340,644	12,471,407	13,804,356	11,181,248	9,211,284
支出の部	人件費支出	3,489,598	3,491,865	2,997,044	2,275,358	2,167,650
	教育研究経費支出	1,527,308	1,359,482	2,249,008	1,287,012	957,130
	管理経費支出	1,042,457	1,124,784	1,087,669	821,368	1,127,756
	借入金等利息支出	55,112	50,661	40,850	41,172	47,585
	借入金等返済支出	1,716,658	2,160,043	801,099	455,860	456,070
	施設関係支出	206,401	820,902	1,092,414	740,663	140,248
	設備関係支出	87,697	230,831	343,793	214,165	73,655
	資産運用支出	116,955	55,385	98,746	2,844	2,899
	その他の支出	2,162,387	2,700,919	3,447,812	1,931,816	1,856,661
	[予備費]			0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 796,217	△ 550,997	△ 787,263	△ 1,025,286	△ 215,267
	翌年度繰越支払資金	1,732,288	1,027,532	2,433,184	4,436,276	2,596,897
支出の部合計		11,340,644	12,471,407	13,804,356	11,181,248	9,211,284

(イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	6,280,701	6,485,514	6,858,602	4,953,869	3,966,593
教育活動資金支出計	6,055,916	5,969,893	6,331,707	4,382,699	4,249,895
差引	224,785	515,621	526,895	571,170	-283,302
調整勘定	424,249	-43,994	-173,512	702,248	79,591
教育活動資金収支差額	649,034	471,627	353,383	1,273,418	-203,711
施設整備等活動資金による					
施設整備等活動資金収入計	11,173	31,944	255,348	664,367	318,961
施設整備等活動資金支出計	294,098	1,051,733	1,436,208	958,217	213,902
差引	-282,925	-1,019,789	-1,180,860	-293,850	105,059
調整勘定	36,045	-60,810	392,715	650,443	-30,703
施設整備等活動資金収支差額	-246,880	-1,080,599	-788,145	356,593	74,356
小計(教育活動+施設整備)	402,154	-608,972	-434,762	1,630,011	-129,355
その他の活動による資金収支					
その他の支出活動資金収入計	3,700,397	3,550,955	2,429,043	2,344,627	2,183,299
その他の支出活動資金支出計	3,397,931	4,340,624	3,988,272	2,135,260	2,177,800
差引	302,466	-789,669	-1,559,229	209,367	5,499
調整勘定等	136	-7,012	-9,100	0	0
その他の活動資金収支差額	302,602	-796,681	-1,568,329	209,367	5,499
支払資金の増減額+その他の活動資金収支差額	704,756	-1,405,653	-2,003,091	1,839,378	-123,856
前年度繰越支払資金	1,027,531	2,433,184	4,436,275	2,596,897	2,720,753
翌年度繰越支払資金	1,732,287	1,027,531	2,433,184	4,436,275	2,596,897

(ウ) 財務比率の経年比較

財務比率	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
教育活動資金収支差額比率	10.3%	7.3%	5.2%	25.7%	-5.1%

2 その他

① 資産運用の状況

現在資産運用していない

② 学校債の状況

現在学校債は発行していない

③ 寄付金の状況

・主な寄付金の使用実績

宝塚医療大学スクールバス運行費補助	20,000,000 円
宝塚医療大学映像システム環境整備補助	2,000,000 円

④ 補助金の状況

・主な補助金の内容、使用実績等

宝塚医療大学経常費補助金	84,024,000 円
専門学校経常費補助金	47,917,512 円

⑤ 収益事業の状況

事業内容：不動産賃貸業

貸借対照表の経年比較

(単位：千円)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
流動資産	11,341	10,826	10,258	100	447
固定資産	800,598	815,413	838,433	390,585	330,374
資産計	811,939	826,239	848,691	390,685	330,821
流動負債	37,202	36,766	41,561	13,313	13,131
固定負債	192,677	220,564	248,250	0	0
純資産	582,060	568,909	558,880	377,372	317,690
負債・純資産計	811,939	826,239	848,691	390,685	330,821
元入金残高	581,741	568,590	558,561	377,053	317,371

損益計算書の経年比較

(単位：千円)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
営業収入	93,091	91,316	89,138	20,522	19,202
営業費用	66,763	66,852	61,683	10,252	9,746
営業利益	26,328	24,464	27,455	10,270	9,456
営業外収益	220	171	250	0	0
営業外費用	3,999	1,977	1,933	0	0
経常利益	22,549	22,658	25,772	10,270	9,456
学校法人繰入金支出	19,594	19,521	22,296	8,970	8,351
税引前当期純利益	2,955	3,137	3,476	1,300	1,105
法人税等	2,955	3,137	3,476	1,300	1,105

3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

① 経営状況の分析

定員充足率が低迷する中で、近年の外部負債に依存した急激な事業拡大により、資金事情が急激に悪化するとともに経常収支差額の赤字が続いている。

② 経営上の成果と課題

令和 6 年度に設置し入学生の確保に苦慮していた宝塚医療大学観光学部は、令和 7 年度新入学と編入により回復基調にあるが、コスト面との乖離が大きく収支の改善にはさらに時間がかかる状況。医療系の部門も総じて定員充足率が低迷しており、学生確保が喫緊の課題。また、収入減の一方で人件費等が毎年増加しており、収入に見合った経費の配分に着手する必要がある。

③ 今後の方針・対応方策

部門別に新たな事業計画を策定し、現在の事業内容を再検討する。
収益を生まない遊休資産を売却する。

IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

当法人は、令和7年3月25日開催の理事会において、改正私立学校法に基づき、理事の職務執行が法令、寄附行為等に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、「学校法人平成医療学園内部統制システム整備の基本方針」を決定しました。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

① 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「学校法人平成医療学園文書取扱規程」及び「学校法人平成医療学園文書保存規程」に基づき、理事の職務執行に係る記録（理事会議事録、稟議書等）を含む重要な情報を適切に保存、管理する体制を整備しています。また、理事及び監事がこれらの情報を常時閲覧できる体制を確保しています。

当年度においても、各種規程に基づき法定保存文書等の適切な保管、廃棄を実施しました。

② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

令和7年3月25日開催の理事会において、当法人に発生した又はそのおそれがある諸般の事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、リスク管理体制、対処方法等を定めた「学校法人平成医療学園リスク管理規程」を制定しました。

理事長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置して、法人全体のリスクを網羅的に把握し、対応する体制を整備しています。

③ 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

令和7年3月25日開催の理事会において、「学校法人平成医療学園理事の職務及び決裁権限規程」を制定し、業務を執行する理事の担当職務及び決裁権限を明確化し、迅速かつ適正な意思決定が行われる体制を構築しています。

当年度は理事会を計17回開催し、重要事項の迅速な審議、決定を行いました。

④ 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

令和7年3月25日開催の理事会において、「学校法人平成医療学園コンプライアンス規程」を制定し、理事長を委員長とする「コンプライアンス推進委員会」を設置して法令遵守の徹底を図っています。また、不正行為等の早期発見、是正を目的として、「公益通報窓口」を設置し、「学校法人平成医療学園公益通報等に関する規程」により通報者の保護体制を確保しています。

⑤ 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

「学校法人平成医療学園監事監査規程」に基づき、監事が理事会等の重要な会議に出席し、意見を述べる体制を確保しています。また、監事の職務を補助する専任の内部監査室長を配置するとともに、監事、会計監査人及び内部監査室が定期的に情報交換を行う連携体制を整備しています。

監事は、当年度の理事会（計17回）のほか重要な会議に出席し、必要に応じて意見表明を行いました。また、監事と内部監査室との監事会議を基本的に理事会又は評議員会の前に開催し、監査の実効性向上と連携強化を図りました。